

平成29年度

秋田大学教育文化学部
附属学校学部共同委員会

実践報告書

秋田大学教育文化学部

附属学校学部共同委員会

目 次

| | |
|--|----|
| 平成29年度総会及び研修会（講演会）：講演題「教室でできる特別支援教育」 | 1 |
| 研修会（講演会）アンケート結果 | 23 |
| 平成29年度 部会活動報告 | 27 |
| 〈教科部会〉 | |
| 国語部会 | |
| 理科部会 | |
| 音楽部会 | |
| 図画工作・美術部会 | |
| 体育・保健体育部会 | |
| 英語部会（外国語活動を含む） | |
| 〈領域部会〉 | |
| 総合部会（生活単元学習・遊びの指導・生活科を含む） | |
| 道徳部会 | |
| 特別活動部会（話し合い活動・学級活動・学校行事） | |
| 学校経営部会（PTA ・保護者対応・学部や外部との連携・教員養成・教育課程経営等） | |
| 〈校園部会〉 | |
| 幼稚園部会 | |
| 小学校部会 | |
| 中学校部会 | |
| 特別支援部会 | |
| 秋田大学教育文化学部附属学校学部共同委員会要項・申し合わせ事項 | 48 |

秋田大学教育文化学部附属学校学部共同委員会総会及び研修会

日 時： 平成30年 2月14日（水） 15：00～16：45分

会 場： 附属小学校はとの子ホール

進 行： 附属特別支援学校教頭

出席者数 101名（学部及び大学院教員は31名）

次 第

1 学部長あいさつ（代理：佐々木和貴先生）

2 研修会（講演会） 15:05～16:20

趣 旨：現在、多様な児童生徒、そして学生が存在し、彼らに対する適切な支援が求められている。そのために必要な知識や方法などを学ぶ機会とする。

講演題：「教室でできる特別支援教育」

講 師：名城大学教職センター センター長 曾 山 和 彦 氏

講師略歴

- ・群馬県出身
- ・東京学芸大学卒業・秋田大学大学院修了・中部学院大学大学院修了
- ・現在 名城大学教職センター教授 岐阜市在住（秋田市にも自宅有）
- ・東京都と秋田県の養護学校に勤務。秋田では勝平養護学校，附属養護学校，本荘養護学校。
- ・秋田県総合教育センター指導主事
- ・秋田県教育庁中央教育事務所指導主事
- ・秋田県教育庁特別支援教育課管理主事

主な著書等

- ・『時々“オニの心”が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキル・トレーニング』（明治図書 2010年04月）
- ・『時々、“オニの心”が出る子どもにアプローチ2 気になる子に伝わる言葉の番付表』（明治図書 2013年03月）
- ・『気になる子が溶け込む授業のしかけークラスみんなのための特別支援教育ー』（教育開発研究所 2014年03月）
- ・『親から子へ かかわりの糸を結ぶ21の言葉』（文溪堂2017年3月）等多数

3 各部会 16:25～16:45 ・連絡（附属小学校公開研究協議会における教科教育教員と教科専門教員などの連携に関して）

・各部会（『部会活動報告書』の内容・次年度の体制など）

講演会記録（概要）

▼附属特別支援学校跡部教頭

早速研修会、今日の講演の方に入りますが、講演に先立ちまして、講師の曾山先生を附属特別支援学校の田口副校長がご紹介いたします。

▼附属特別支援学校田口副校長

それでは本日ご講演をいただきます曾山和彦先生をご紹介します。お手元の資料にもあります通り、先生は東京学芸大学を卒業後、東京都立の養護学校で勤務され、その後秋田県の養護学校教師として13年間、主に肢体不自由、知的障害、病弱の子供たちを指導されました。

その後、指導主事、管理主事を経て、平成19年4月より名城大学教職センターの准教授となられ、平成27年より教授、28年から教職センター長に就かれております。教員時代、実は、附属養護学校にも5年間勤務された附属のOB、私たちの仲間でもあります。

先生は、小中学校の通常学級に在籍する特別な支援を必要としている子どもたちへの支援体制づくりが始まった、秋田県は大変早く平成14年度から始まっているのですが、その時から一貫して保護者と担任の要請に応じて、発達気になる子どもの目線にたった理解と対応へのアドバイスを継続してこられました。現在も大学の教職、大学での講義の傍ら、学校訪問して支援を継続しておられます。

そして、各学校での優れた実践を著書にし、たくさん紹介いただいております。本日は「教室でできる特別支援教育」という演題で、その一端をご教授いただきます。

日ごろ、私たち関わっている幼児、児童、生徒そして大学の学生と、対象の年齢は異なってもどの教室にも必要な生徒理解と特別支援教育の知恵をたくさんお伝えいただけるものと、楽しみにしております。では、曾山先生、よろしく願いいたします。

▼曾山和彦氏

それでは改めましてみなさん、こんにちは。名城大学の曾山です。本日は貴重な機会をいただきまして、ありがとうございます。でもやはり名古屋は早く出たんですけども、なんかちょっと気持ちウキウキしておりました。まだ家は秋田にありますので、とって、なかなか秋田に帰る機会がなく、なんか嬉しいなと思って飛行機に乗り、そしてまた雪が好きですので、たっぶりの雪になんか、こう帰って来たなっていう感じで、嬉しく今日はこの場に立たせていただいています。70分の時間、約ですね、私の大学授業は日頃90分ですので、間違えないように気をつけていきますので、4時20分までということですので、そのように進めていきます。

広い会場です。マイクは今ちょっと途切れ途切れにもなったようでしたけれども、これで届いてますか？一番後ろの方っていうのは、これで大丈夫ですか？はい、では、これでいきましょう。もし聞こえが弱い時にはもう少し跡部先生にあげていただきますので、よろしく願いいたします。

附属にもお世話になりましたし、秋田に育てていただいたという思いが私の中にはありますので、教員として、その恩返しが少しでもできればいいなと思って、今日も伺いました。このいただいたテーマ「教室でできる特別支援教育」。今日も幅広い講師の先生方が前ということなので、その中に少しずつでもヒントになるようなことがお伝えできればなあというふうに思っています。

自分自身の経験、そして今はもういろんな全国各地を回る機会がありまして、いろんな学校に触れ

ています。私の立ち位置が決まってきました。私は今、ここなんだなという思いがあって、それをお伝えしますから。ただ私よりベテランの方も多くいらっしゃいますし、どうぞ摺り合わせをして聴いてください。私は100ということもありません。ただ、私が明日からこちらの附属の学校に戻ってきて、小学校、中学校、あるいは特別支援学校の子どもの前に立つとすれば、できることしか言いませんし、またできることです。そういう意味では難しくはないということですね。その辺のところまで話をしていきますので、聞いてください。

言葉も割にだんだん早くなるようです。特に時間が短いなあとと思うと、自分の中でもう資料の進めなければという思いが出てくるでしょうから。でも何かあった時には止めてください。大学生にも言ってます、あまりにも早くなったら止めてねって、どんどん行っちゃうからさって。

明るさはどうでしょうかね。できれば私は、限りなく明るくやりたい。大学の授業もこのくらいの時間帯でもやる時がありますけども、特に、午後とかは絶対に暗くすることはないですね。ご飯の後とかは。暗くした瞬間に眠ろうとするだろう、君らって、皆さんはそれはないんですけども。

あとお手元にはほぼ同じ物が用意してあります。でも、少し抜きがあるんです。そこはちょっと聞いかけますので、ご自分の中で答えを用意してみて、お互いにちょっとという所も設けますから、特に前の方は、ですよ。私もさっきそこに立って見たんですけども、首が痛くなりますよね、これを見てるとね。下の方がもしかしたら見やすいかもしれません。見やすいように使ってください。いいでしょうか。

私の大学の授業のスタイルもちょっとお見せしたいというか、こんなふうにやっていますよ。今なかなか気になる子も多いですからね。教職を教えますけども、先生になりたい子たちですけども、ちょっとやってみてっていうように言うと、「いや、僕はいいですから」みたいな。「いやいや、そういう問題じゃなくて、先生に話をしてほしいんだけど」と言う。勉強はものすごくできる子が多いです。名城も理系は強い大学です。LEDのノーベル賞とった赤坂先生もいらっしゃいますので、その辺のところとか。池上先生も今うちに来ていただいたりしていて、かなり大学生としては知的には高い子が多いんですが、関わりが苦手な子が増えてきましたね。その辺の所も授業の中でどうしようかなと思って、考えながらやっているところがあります。

最初に、これ、皆さん、もしかしたらお知り合いの方が近くにいるとは思いますが、私がいくつか投げかける時にお隣の方でも結構ですし、前の方でも無理なくて結構です。2人か3人で話ができるようにはしておいてください。どういうことかという、もうよく名前がわかっているんだったら、30秒ぐらい今時間とりますから、「今日も頑張ろうね」って、「元気だった」でいいです。でももしかして学校種が違って、知らない方が横に居た時に話をすると急には嫌でしょうから、名前ぐらい、言っておきましょう。「名城の曾山です」っていう、「生徒指導特別支援教えています」ぐらいです。いいでしょうか。3人あるいは2人位で結構ですから、相手を決めておいてください、今の内に。30秒だけとりますから、自己紹介はその回やってくださいね。一人30秒じゃないですよ、空気読むのも大事ですからね。じゃあ、いきましょ、30秒。相手を決めておいてください。よーい、スタート、どうぞ。話をする人。

はい、そこまでにしましょ。切りのいいところで、そこまでにしましょ。名前ぐらい言っときましょ。じゃないとね、急にえーって、しゃべれって言われたって、知らない人とは嫌だよって。大学生もありますので、こんなふうにあります。

では、いきましょか。早速こちらの方。変えていきますよ。これ、私の板書代わりでもあります

から、こちらの方が動いていきます。明るさもどうでしょうかね。もう一回確認しましょう。見えませんか？これくらいの光で。もうちょっと暗くしますか？いろんな、微妙な首の動きで。これくらいにしましょうか。こちらの方がいいみたいですね。じゃあ、これで行きましょう。では資料、変わっていきます。

私の立ち位置を話しをしていきましょう。教室でできる、あるいは通常学級におけるというふうに読み替えていただいても結構です。では、資料、変わります。

どうでしょうかね、私は今、いろんな子ども達に触れて、子ども達の姿はある程度見えてきているし、そこから見える基本的な方策はもう、ここにあるんじゃないかなあと思っていますから、まとめてみました。

こういう子はいませんか？小でも中でも、あるいは大学でも特別支援の場でも、褒めて、認めても、「どうせ」って言う。「どうせ、俺は」「どうせ、僕なんか」「どうせ」「どうせ」って言う、自信がないんでしょうかね。こちらの方に関係するんでしょうね。

自尊感情がボロボロの子がいる。もちろん、状態のいい子もいますよ。でもなんか、落ちてるなあ。大学生もそうです。「自尊感情」でこの時間は通しますが、「セルフエスティーム」です。心理学の言葉なので、現場ではどちらかというどどちらかと云うともっと馴染みのいい言葉がありますね。「自己肯定感」、ほぼイコールに使っていいと思っています。研究者によっては分けていますが、私自身は分けてはいません。なので、一緒に使っていきますが、ここでは「自尊感情」でいきます。これが落ちている。一つはね。

あと、こういう子、いません？ほんとにそう思っていないと思うんですが、出会った瞬間に、「うざい」「死ぬ」「殺す」。そんなこと言って、関わりがうまくいくはずでしょう。強い子だったら手が出てきますよね、トラブルが、どうですか？

これはねえ、やはりこちらかな。ソーシャルスキル。横文字も結構出てきます。置き換えできますね。人付き合いのコツ、技術のことですよ。皆さんは大人として、私もそうですけども、ありますよね。誰かにパッと会った時に、知り合いだったら「どうも」「元気だった？」と頭下げますし、「元気、元気、どうだった？久しぶり」と言うからスムーズに行く、そういう挨拶、あるいはうなづくとか、表情出すとか、それがなければうまく関わっていけないですよ。

今、こういう子が多くなってきた、言葉として。いろんな学校廻ります。小学校なんか廻りますが、トラブルが多くて、困る、困るっていうから、「何があったんですか、先生？」って聞くと、「ちょっとした喧嘩なの、『ごめん』って言えばいいのに、『大丈夫？』って言えばいいのに」、言わないから火がでかくなってきてる、そういう子も増えてきたっていうことです。状態のいい子もいますが、これがソーシャルスキルの問題です。

なので、私はこう思ってる。いろんなやり方でいいですから、ソーシャルスキルや自尊感情を育みませんか？いろんなやり方で。

まず一つ目。自尊感情は自己評価の感情とも言います。私たち大人にもあります。自分にOKと云えない人は、基本的には周りには猶更OKとは言いませんよ。自分を大切にしない人は周りなんかもっと大切にしませんので、これがいじめとか不登校につながるっていう場合もありますよね、自尊感情の問題。

あとはこれ、他者と関わる技術、コツですから、それがなければ他者なんか大事にできないでしょう、関わっていけないでしょう、それがソーシャルスキルの問題。この辺を何とかしたい。でもこれ

が今の子ども達に、私が子どもだった時以上に、落ちるのは当たり前だと思っています。大学生も落ちるのはしょうがないかなと思っています。気の毒だなあって思っています。だって、環境が違い過ぎる。

まず、家庭の問題ですよ。家庭が昔は両親がいて、じいちゃん、ばあちゃんいたら、1人の大人が10の褒めとか、叱りをかけるとしましょう。単純計算しても40ですよ、日々。でも今いろんなご事情によって、お父さんお一人とか、お母さんお一人という場合もあります。一生懸命頑張ってらっしゃったとしても、かける言葉っていうのは少ないですよ。10とか、20、どうやって子供が育つんでしょうね。難しいと思いますよ。

もちろん、良く育つ子もいます。大学生にも「母が僕を一人で育ててくれた」と。私は「いいお母さんだね」、「絶対恩返ししろよ」と言います。そういう良く育つ場合もありますが、そうじゃない場合もあるでしょ、かかる言葉が少ないからです。家庭の問題ですね。

あとはもっとダメージが大きいのは地域だと思っています。こちら、秋田はどうですか？皆さんがお住まいの地域で子どもに出会って、子どもに声をかけることはできますか？今のお住まいの地域で、叱ることができます？褒めることができます？下手すると通報されますよ、今。今はそういう時代でしょ。昔は違う。

私は群馬県の出身なんですが、親に言われましたもん、「誰かに声かけられたら、お前も挨拶して返せ」と言われた子どもですよ。今、違いますよね。お若いお母さん方が、いろんな事件があるから、こう言うんじゃないですか、「誰かに声かけられたら、あなたはすぐ走って逃げなよ」と。誰が大人信じるんですか、地域の大人をね。

では、なんで昔の大人は声かけられたんでしょう。今はできない、何故。昔はできましたよ、何故？だって、どちらもわかるからでしょ。向こうだって、曾山んちの上の子ってわかるし、こちらもあるこのおじいちゃん怖いね、優しいお婆さん、分かるから、声がお互いにかかるっていうこと、そうでしょう。

言いたいことは家庭の力も地域も昔に比べれば、ずっと関わりが弱くなってるということを言いたい。状態のいい家庭はそのまま。状態のいい地域もありますから、それはそのまま。でも落ちている所が多いっていうことを言いたいんですよ。

でも、この2つの力、これが落ちるのは、どちらも関わりを通してしか育たないからですよ。本を読んで、どうかなるっていうのは難しいんですよ。私たち大人は、自分で本を読んだり、あるいは自分でセルフトークで、自分にオッケーっていうこともできますよね。でも、それ、自分で言っても恥ずかしい訳で。なんか、自分で褒めるって恥ずかしいよね。大人でも恥ずかしい。子どもなんか、もっと恥ずかしいと思いますよ。

自分ではなかなか高めにくい。どちらも関わりを通して、周りからの評価等によって、褒められたり、叱られたりして、自分をオッケーなんだとか、あるいはこういう力が付いてきたなってなるんだと私は思っています。どうでしょうか。

私の立ち位置。いろいろ研究でも触れてみて、自分が実際に、今、大学生の前にも立ってみて、いろんな学校で子どもを見てみて、やっぱりこれってそうだよというような思いがあります。なので、伝えています。いいでしょうか。

人が人をやるには、人が必要ですよ。人が本当の意味で人になっていくには、人との関わりにおいてしか、人になることは出来ないと思ってますから、どうでしょうか。

だから、ここに学校存在の意義があるんだと思っていますよ。今はね、教科的な力もちろん伸ば

さなくちゃいけないです、私たちは。だけどそれはもしかするといろんな所で、人工知能というか、いろんなAIがもしかするとこれから代わるかも。あるいは塾とかがあるけど。私たち学校はこの辺の所、人との関わりは家庭がそれを難しくなってきた。地域だって関わりが難しい。

でも、私たち教員は昔と変わらずに集団を前にしてるでしょ。30人、40人を日々。それだけは昔と変わらない。人数がちょっと少なくなったと思いますが、いつも集団を前にしてます。いくらでもペアでしゃべってみて、4人で関わってみてという言い方ってあるよ、聞き方ってあるよね。日々できますよね、いろんな所で、ちょこちょこっと。

だから私はこう思ってる。強めに言うんだったら、人を人にする。私は最後の砦が、もう「学校」だと思っています、私たち教師だと思っています。強めに言えばね、その思いがあります。その覚悟で立ちたいなと思っています。私たちはまだなんとかできる。関わりを入れられるからです。いろんな場で。学校の中で、どうでしょうか。私たちの立ち位置、どうですか。ちょっと強めに言ってますからね。その辺は摺り合わせしてくださいね。

学生が面白いと言いますよ。私がこういうシートを使って、大学生に話をすると、最近なんか先生の言うことが良く分かってきた。カラオケに行くと、面白くない理由が良く分かったっていうから、「ちょっと、ちょっと、なんで、なんで、教えて、教えて」と言う。「だって、先生、カラオケに男5、6人で行っても、全然おもしろくないんですよ。だって、俺が歌ったって、誰も聴いてねんですよ」と。みんな、こうやって下向いて、下で触ってる？自分の曲が来ると前に出て行く。

昔は違いますよね。私が歌うと「おー、曾山トップ」。「はーい」と鳴り物で、「アンコール、アンコール」「じゃあ、2曲続けていきます」、一体感、それが無い訳でしょ。一緒にいるけど一人で遊んでいる感じ。そう話した学生がいました。

「ああ、そうか、そうか。だったら今度は君がリーダーとして、『この時間だけ、しまわない？』って言う。みんなでやれば」というふうに言ったことがありました。

おそらくボーリングもつままないんじゃないかなって、言わなかったですけど。ボーリング、昔、トップで投げると「ストライク。やったー」。ハイタッチ、ハイタッチ、ハイタッチ。今は違うんじゃないですか。投げました、ストライク、誰も見てなかった。見てないかもしれません、手元で遊んでるからね、という時代。難しいですよ、関わりが。

大学生も、だって、左手、特に吸盤が付いてるかのようにならずと、ツールものがありますからね、どうでしょうか。関わりが難しい時代になったなって。だから気になる子は昔以上に気になるんでしょうね。昔からいましたからね。今は発達障害っていう言い方ができましたけど、昔から知的な遅れは無い子というのはいましたよ。

それが今、学習面だったらLDって言ったり、行動面だったらADHD、あるいは自閉的なタイプだとね、高機能自閉だったり、当時だったらアスペルガーっていう言い方が出てきた。昔からいましたけど、診断名がなかった。

でも、なんかやれてましたね。学校崩壊なんかゼロでしたしね、私が子どもの頃は、50人ぐらいいたのに。あと不登校もゼロの時代でしたね。いじめってあったのかな？そんな時代でした。それはやはり関わりの方が強かったんじゃないかなっていう、私の今の思いがあります、どうでしょう。その辺が弱くなっている子どもたち、なんとかしたいですね。それは私たちはなんとかできそうです。その辺のヒントをいくつか、お伝えします。

では、いいでしょうか。資料、変わりますよ。私はこの辺を押さえて、こういう立ち位置に来てい

ます。スリーステップ、資料、変わります。

自尊心、ソーシャルが弱いから、気になる子が前以上に浮かび上がってます。昔はそういう子がいても、周りの子がちょっとおさめる感じ？先生以上に上手に関わる子がいたと思う。でも今は煽る子がいますよね。火を上げてる子は確かにいる、気になる言動。そこに行って、煽いでる子がいるんですよ、お前が火をでかくしてるんじゃないか、団扇持って。あるいは油たらしに行ってる、周りの子は「おいおい」と思ってる。そういう子、見てください。おそらく状態良くない。家庭的に何かあったりする場合が多い。状態のいい子は、そんなことはしません。どうでしょうか。そういうちょっと出出す子は増えたかな、いろんな学校廻ってね。

ということで、自尊心、ソーシャルは、気になる子だけじゃなくて、周りの子の問題もあるということをお願い。そして、ステップ1から。

まずステップ1は、気になる子のことを知らないそれは難しいですよ。自閉のタイプとか、ADHDのはもう、それはこういうふうにやっていくといいよっていう、ある程度のものができてますから、分かっていますので、その辺のことはまず知っておく。

そして2つ目が、これが私の学級だとする。この状態理解ですね。後で出てきます。2つの要件を確認します。まずルールがあるかどうか。ルールができてるかなが、一つでしょう。あとは私と子ども、子どもの中に糸が結ばれてるかどうかという、触れ合いとか、リレーションっていう言葉になります。ルールとリレーションっていうものがあつたら、きっといい場所になるかな。この辺のチェックでしょうね。

3つ目。気になる子はもちろん、状態のいい子はもっと、すべての子の自尊心、ソーシャルを上げていきたい。

特に1, 2を整理すると、やっぱりユニバーサルな支援ができるかなと思ってます。ユニバーサル、普遍的っていう意味ですよ。もうちょっとわかりやすくしておきましょうか。普遍的って、ちょっとわかりにくいな、どんな感じですか。もうちょっと砕くと。お隣の方、前後の方で30秒ほど、もうちょっと砕いてみましょ、ユニバーサルを、言い方を。じゃあ、いきましょか。声、かけてください。よーい、スタート、どうぞ。どんな感じ？

はい、そこまでにしましょう。切りのいいところで、一言で結構ですので。いいですか。「万人向け」ということですよ。その子だけじゃなくて、みんなに効くよということ。私、時計のことで、最初に言いましたよね。70分程度ですって。4時20分には終わりますよと。延びることはなく、やりたいなと思っていますよって、16時20分まで。それはここに自閉タイプの子がいたら、絶対に欠かせない支援ですよ。絶対と言っていいぐらい支援としては必要なんです。見通しを伝えるのはね。

でも、他の人は？皆さんもそうです。言われて、嫌でした？4時20分に終わりますよって言ったの、私が言ったの、嫌でした？でもいいでしょう。なくたっていいんだけど、あつてより、いいですよ。それが万人向け。例えばそれもユニバーサルっていうこと。そういうのが必要っていうこと、いいでしょ。それができるようになりますね。自閉のことを知ればね。あるいはADHGタイプはこうだなんていうことを知っていくと、ユニバーサルのこともちよつと見えてくるものがあるという、どうでしょう。

私はこのステップ3つ踏んでいくとこういう学級ができると思う。インクルーシブな、障がいがあってもなくても、積み込んでいけるような、そういう学級ってできるんじゃないかなって思っています。それは具体的に言うとかびまる子ちゃん学級だと思っています。「えー、アニメの話かよ」と。ち

びまる子ちゃん、たまにご覧になってください。お子さんがいたらね、長い番組です。私もたまーに見てます、つけてるだけっていう感じかな。ゆっくりは見なくても、なんかつけていると、なんかホッとする。

馴染む、馴染む、あのアニメが馴染む。だって時代背景が一緒だから。家庭の場面が出てきますよね。おじいちゃん、おばあちゃんいらして、あと両親とお姉ちゃんいてね。テレビ、ブラウン管みたいなテレビを見ていて、ご飯食べながら。出てくるアイドルが秀樹ですもんね。西条秀樹ですよ。ヤングマンの秀樹じゃないかって。ハウスパーモンドカレーの宣伝やってる、秀樹じゃないかって。以前、この間なんか、城みちるとか出てましたもんね。いるかに乗った少年とかって、今笑ってる方はほぼ世代が一緒っていうことね。ポーっとしている方は、お若い方。もう馴染む。家庭の感じがあんな感じでした。私もね、おばあちゃんいましたので、あんな感じに馴染むなって。

また、学級の方に話を転じると、まるちゃん3年生ですけど、個性豊かですよ、面白い子です。友達のたまちゃんもおとなしいけど個性あるよねって。お金持ちの花輪くんはいる。玉ねぎみたいな頭してね、君は皮肉っぽいなあ、永沢君。永沢君といつもいっしょにるのが、卑怯者とか言われてる藤木君。後ね、女の子で、野口さんかな、なんか、君、大丈夫かなあ、暗いの野口さん。あとサッカー選手、長谷川健太じゃないかな？あれ、清水市なので、ガンバの元清水エスパルスの長谷川健太君なんか同級生選手、同級みたいですよ。

いずれ、いろんな子がいて、個性豊かなメンバー、オンパレード。トラブルも多い、涙流す時もある。でもあの学級、崩れてます？ 私、崩れてないと思いますよ。あんな感じだった、私の小学校時代って。

このテーマに関する子がもう1人出てくるの。山田君。山田君、出てきますよ。良く出る。あの子は知的な遅れないですよ、もちろん。だけど動きが少し多動っぽいんですよ。言ってることも少し面白いの。あの山田君がこの時代にいたら、「はい、君はADHDかも」って言っちゃいますよ。でも学級崩れてませんよね。

先生だって、眼鏡かけてね、叱ることなんかない先生みたいな。「はい、さくらさん」。どんだけ優しいんですか。でも、あの学級、崩れてない。なぜでしょうか。山田君は気になる言動として、こうやって煙が上がります、狼煙のように。

でもさっき言ったように、まるちゃんやたまちゃんがある程度、ほどよく自尊感情、ソーシャルが身につけているものだから、「山田、それやっちゃ、だめだよ」と教えにいける。私たち教員以上に上手に関われるっていう感じ。あまりにも火が強い時には、煙が高い時には「たまちゃん、だめみたい。先生に言いに行こうか」と下がって行けるんですよ。火を大きくしない子達です。どうでしょう。私はそんな時代だったな、自分達もそうだなっていう思いがあります。どうですか。

ということで、まるちゃんに話を転じますか。まるちゃん、自尊感情とか、ソーシャルが私はあると思っています、ある程度。泣く時もある。でもまるちゃん、自分にオッケーって言ってると思いますよ、ある程度。誰のお蔭だと思います？まるちゃん。いろんな人のお蔭なんですけど、一番はこの人ですよ。友蔵じいさん。「まるこや」って全面受容だからね。

あれくらい人に愛された子は、言葉をかけられた子は、人の愛し方を知ってますよ。子どもというのは、大人から愛されれば愛されるほど非行から遠ざかりますよ。子どもというのは、大人から愛されれば愛されるほど、非行から遠ざかるという言葉がある。私の言葉ではありません。夜回り先生の水谷先生の言葉。言葉をかけ続けるということ。どうでしょうか。私たちの仕事でもありますよね。

まるちゃんはきっと将来おじいちゃんに感謝する。あんなだけ全面支援したおじいちゃんにね。まる

ちゃんの自尊感情、一手に引き受けている感じありますよ。もちろん、他の人だって。地域の人だって、「まるちゃん、今日もいい子だねえ。頑張ってるねえ」って、地域の人のもあって、自分にオッケーって言ってる。自尊感情はある程度ほどよくついていると思います。

あとスキル、人付き合いのこつ、技術、挨拶、うなずき、ありがとう、ごめんね。そういうのは親もかなりうるさく言うし、お姉ちゃんとのいろいろバトルの中でも身につくし、やっぱり地域の人があるまるちゃん、「あいさつ上手だね」。さえきさんとか、中野さんとか、佐々木のじいさんとか、みんながまるちゃんを知ってる。どうですか。私はそう思ってる。馴染むのは、ほぼ生まれた時が同じ、だからですよ。まるちゃん、昭和何年生まれか、御存じですか？あのまるちゃん、皆さん一緒の方いますよ。昭和40年生まれだから。私は36年なので、ちょっと上級。だからね、あー、同じ、同じって。

私、この話、いろんな所でしてるんです。学生にもしてます。神様が私にプレゼントくれたんだと思う。私、孫が産まれました。もう2歳になります。孫が初孫で嬉しかったんだけど、それだけでも飛び上がったんですが、誕生日でまた二重の喜び。だって、まるちゃんて昭和40年の5月8日生まれなんです。うちの孫、5月8日生まれだったの。びっくりした。えー。365日から、孫が同じ日、まるちゃんと。私の生きる道、決まりましたもん。目指せ、友蔵。孫の自尊感情、一気にいきますから、私は。どうでしょうかね、そんなふうに孫を愛したいなと思うし、担任としても子ども達を愛していく、言葉をかけていくということです。どうでしょうか。目指したいのはこういうこと、3つのステップによって、まるちゃん学級みたいなこと、生まれるかなと思っています。

こちらの小学校さんはどうですか？中学校さんはどうですか？そんな、なんか、ホワンとしたあったかい学級、できたらいいですよ。そうしたら、きっと気になる子は溶け込んでますね。そういう学校、学級にいろいろ出会ってる。全国各地を見ると、あったかいね、気になる子、どこにいるかわからない、診断があるって言って、後ろから見ててもわからないんですよ。溶け込んでるからですよ。周りの子達も優しいというのもあります。どうでしょうか、ということをお願い。

変えられない、ステップ1。小中学校で文部科学省調査、当てることもありませんから、安心して下さいね。前にいると結構目が合うから、当てないでって、当てることありませんので。何%ですか？2012年発表、平成24年の12月発表。私たち教員が見てとった数字。気になるね、学習、行動、対人関係、何パーセント%？有名な数字です。予想でどうぞ。良く知ってる方は確認で。はい、30秒。よーい、スタート。どうぞ。何パーセントですか？

出ました？覚えておくといいですよ。はい、そこまでにしましょう。切りのいいところで。試験でもなんでもありません。私ができるのは、ペラペラ毎回しゃべってるから、入ってるだけ。でも入れておくといいですよっていうか、もう必要でしょうね。出します。有名な数字です。採用試験にも良く出ますので、学生には「覚えておけよ」って言ってます。

6. 5. 40人でかけ算すると2, 3人は学習面か、行動面か、対人関係で、何か気になると。知的な遅れはないですよ。ほら、だからもう知らないじゃ済まないんですよ、みなさんは。こういう子、前にしてるでしょ。もう一つ、特殊教育じゃないですかね。特別支援教育でしょ。だから、もう知らないじゃ、済まないの、特に通常学級において。

正式にスタートしたのはいつなんですか？法が変わって、ヨーイドンっていつなんですか。特別支援になったのは。はい、お隣の方を中心に、10秒程。どうぞ。出ました？そこまでにします。

言いますよ。平成19年度4月1日からですよ。学校教育法は一部改正。だからもう特別支援学校にみんななってるじゃないですか。前は盲・聾養護学校っていう言い方なんだから。その辺は変わって

ますよ。法がスタートして、まもなく12年目になります。助走としてはもっと前からさつき、田口睦子先生が言いましたけども、秋田県は早かったです、動きが。もう平成14年、15年ぐらいから動きはいろいろやっていたので、だから助走は始まってたんですよ。もう、20年近い感覚はありますよ。

何を言いたいのか。対象が広がってきてるでしょ。通常級における6.5の子たちも含まれての特別支援教育ですよ。だから俺は数学の専門、俺は国語の専門で「知らないよ」では、もう済まないということですよ。昔はまだ済んだ。特殊教育はね、ということ。

なんでこんなこと言うかと言うと、高校の研修にもいろいろな所に行くときにたまにまだそういう先生がいらっしゃるからです。「えっ、俺だって、数学の専門だし」と。「知らない、知らないよ。アスペルガー知らないよ」、「専門じゃないし」と。いやいや、でかい声でもう言うの、止めましょうね。親御さん、それ聞いたらびっくりしちゃいますよって言うこと。いいでしょうか。

ということで、基礎、基本の所、まず押さえればっていうあたりですよ。もちろん、詳しくということではなくてももちろんいいんですが、その辺のことは基礎ということで、数字も出しました。いいでしょうか。もう知らないでは済まないですね。ちょっとしたことを押さえるだけでもいろんなことができるようになります。

いきますよ。ということで、「I think」の前にはもう理論が必要です。いろんな理論はもうできているし、実践で積み上げられたものがあるんですよ。誰の言葉か、私の師匠は構成的なエンカウターの國分康孝先生ですから。私は國分先生の弟子なので、國分先生のお言葉です。

「I think」俺はこう思う。その前に理論があれば、そのブレが減ってきますね。だから私たち教員はずっと学びなんでしょう、ずっと研修なんでしょう、ずっと本を読むでしょう。それが職業倫理です。それが嫌だったら、こういう仕事にはついていない。どうでしょうか。ブレがピタッと止まることはありません。100%を埋める理論はないからね。でもこの揺れは減ります。そのいくつかをまた出していきます。それも私がいいと思った理論ですから、摺り合わせをしてください。いいでしょうか。

なので、障がい理解についてもいろんなもう理論ってあるんですよ。自閉についてはこういうことって言う、こういうふうにやったら、ある程度いいんじゃないかなとか。その辺を学んでいくと楽になる場合がある。お互いに。

よかったら、こういう本もどうぞ。『自閉症だった私へ』有名です。ドナ・ウイリアムス。あと日本人の子どもの方がいいんだったら、東田君の『跳びはねる理由』なんで、跳びはねるんですかね、自閉の子ってね。この子なりの見解は出してますから、どうぞ、かなり知的に高いのでね、よかったら、どうぞ。その世界が見えます。どうでしょうか。では、いいでしょうか。これがステップ1。

そして、今日は障がいのことについて、発達障害、丁寧にやれませんが、やっぱり自閉が難しい。あと診断基準が変わりましたから、そこだけいきましょう。資料、変わります。

オーティズム・スペクトラム・ディソーダーっていうふうになりましたよ。前は後半生発達障害。自閉症ですね。これが自閉症のスペクトラム障害っていう診断基準がちょっと変わってますので、アメリカの基準を多くのお医者さんが使うので、これになりました。その辺は私たち教師ですから、細かくはいいですが、支援のことだけは知っておきたい。

基本対応があります。私、これ、王道だと思っている。生意気なこと言ってます。王様の道、正攻法の基本形っていう意味もあります。いろんな小道とか、道はありますが、まずここを通らないと。

まず、この道は通ろうよっていう意味で王道っていう言い方をします。

私はこの附属の学校にもいましたし、ずっと特別支援の方で自閉の子にも関わってきて、やっぱりこうだったなという思いがありますから。もちろん100とは言いませんけどね。なので、まとめてみました。

目、使いましょうか。目を使う、カードとか、文字とか。耳からの情報って弱いからですよ。それはフォトグラフィックメモリーって、特性があるってわかっているから。脳の特性がカメラでパシャッと写したのを認知していくんですよね、溜めておくんでしょ。だから耳からの情報だけじゃなくて、言葉だけじゃなくて、目も使おうねって、第一対応だと思いますよ。これが合理的配慮でもあります。理に合う、理屈に合うっていう意味です。特別支援学校、あるいは特別支援学級をどうぞご覧になってください。かなり視覚的なもの、入れてるでしょ。これですね。

2つ目。短記憶弱いですよ。ADHDもそうだけど、私はこういう指示がとて多かった。ペラペラ系なので。いきます、「はい、みんな、教科書持って、椅子持って、前に来て」。今、指示がいくつ入りました？一呼吸だけだね。多くの子もはできますよ。今3つ入ったんですよ。それぐらいのことはテーブルに乗ります、短期記憶の。

ところが、乗らない子がいる。一生懸命聞いてても、教科書だけ持って来ちゃう。椅子忘れる。2つだけですよ。叱りたいでしょ。「だめじゃない、聞かなくちゃ」は可愛そう、可愛そう。わかっているんだから、こうやれば。一度に一つずつね。「はい、みんな。教科書持って」「椅子は？」「前においで」と切っていく。1つの指示に1つの動作を乗せるんですよ。言葉はスリムじゃなければ伝わりませんよ。言葉はスリムなほど伝わる。そのタイプの子にはね、どうでしょうか。2つ目。

3つ目。見通しのこと言いました。先程、時間のことで、いいでしょうか。だから予定伝えてくださいよ、基本的にはね。急な変更等によって自閉の子はパニック起こすから。そういう子はかなり。

4つ目。苦手ですよ、禁止、注意。ガラスの心の持ち主って分かっているんですよ。心がものすごく薄いんですよ。ちょっとしたことで割れますよ。「廊下、走っちゃだめでしょ！」でパリン、割れますよ。「悪い言葉、使っちゃダメなの」でパリン、割れますよ。他の子は割れないのですが。だからどうすればいいんですか。できるだけ肯定的に、「廊下は静かに歩こうか」「優しい言葉、使おうか」です。どうでしょう。

この4つは、そのようなタイプの子にはもちろんだけど、他の子にも合って、邪魔ではない、よりいいでしょ。より丁寧、合理的な配慮になっているし、ユニバーサルにもなってるっていうこと。

5つ目はちょっと違う。その子だけ、合理的な配慮にはなるけれども、これはユニバーサルではない。文化が違う、土俵が違うと思えばいいですよ。感覚の過敏性ありますよ、多くの場合。触られたくないんですよ。触覚過敏。

特別支援学校でよく「いなくなったあ、どこ行ったかな」と探しに行くと、体育館の肋木の高い所に結構いるんですよ。なんでそこにいるのかなあって。私はこれだなと思っています。触られなくて済むでしょう。抱っこされないで済むでしょう。上がって来ない限りはね。避けてますよね。ああ、それで高い所か、そういう説がある。私はそれに一票です、そう思ってます。触覚の過敏性があります。

耳を抑える子いるでしょ。運動会のバーンは聞こえ過ぎ。次、まぶしがっている子いますよ、こうやって、視覚的な過敏。匂いのね、トイレとかね、公衆トイレ入らないとか、臭すぎて。化粧の匂いとかにも弱い子もいるから。匂いの過敏の子がいる。あとこれ、味覚ですよ。口廻り、これが偏食を生みますよ。君は今までふりかけだけで、よくここまで大きくなりました。どうですか。この辺のと

こね。かなり自閉の子は、この辺があるっていうこと。重なっている場合があるし、どうでしょう。

あとこれ、時宜性も悩ましい。まともに受けちゃいますからね。「いいですか、みなさん。まっすぐお家に帰るんですよ」、あそこの角曲がらないと帰れないけど、ぶつかる。誰が、そんなこと言ってんだって。違うでしょう。「いいか、お前ら、道草、くうんじゃねえぞ」なんて、道の草、食うんですか、いやいや、そんなこと。「テニスの腕が、君は上がったね」、腕が上がる？いやいやいや、っていうことでしょ。まともに受けるっていうこと。言葉をね。

だから、心無いことも言っちゃいますよね。友達にね。「デブだからさ」「チビだからさあ」と、言っちゃいけないですね普通は。見たまま言ってます。文化が違う、土俵が違うって言うこと。私たちは違うものが見えてるだろということを知らないとね。

その辺のことを知るには、さっきのような本を見ると少し世界が見える。どうでしょうか。いいでしょうか。よかったら、こういう本も書いてみました。参考までに。資料、変わりますよ。

ステップ2です。それは学級集団の学力ですね。全ての子どもがこの秋田県を居場所にしたら、学力の問題はね、かなりいい状態になるんだと思いますよ。秋田県が居場所だったら、頭はみんな、回り始めますので。秋田の学力が高いのは、私はやっぱり学級の状態もかなりいいんだなと思ってましたよ。教育委員会にいた時からね。だって、話聞けます。

沖縄の先生が、何年か前に、10年ぐらい前かな、秋田に来て、2年間ぐらいやった沖縄の先生が、秋田のセンターで発表したことがありました。そこにいたことがありました。フロアから、「沖縄の子と秋田の子って、先生、何が違うんですか？」って言ったら、沖縄の先生の答えは一言でしたね、やっぱりなと思いました。「秋田の子ども達は、授業中の話の聞き方が違う」って言ったんですよ。「やっぱり話が聞ける、だから頭が回るんじゃない？」と私はそう思いました。ここが居場所だったら、学力の問題はかなりいい状態で回るでしょうね。

次、生徒指導がきっと機能していくことです。不登校、いじめが押さえられるでしょうね、学級が居場所になっていれば、学級をうまく作っていったら。

あと特別支援、このテーマです。気になる子が溶け込むでしょうね。

最後、保護者のことですね。ここのところ、保護者のことを入れておいてください。保護者に信頼されることが大切で、「今日も、なんか曾山先生に褒められたんだあ。楽しかったんだあ」です。

今、教育の課題、4つ言いましたよ。学力面、生徒指導面、特別支援面、保護者支援面。私はこういう居場所にしたら、その辺がかなりうまく回るんじゃないかなと思ってます。やっぱり学級づくりかな。その辺の所、大事にしていきたいな。

教科指導の力ももちろんです。でもそれだけじゃなくて、もちろん両方言っていけないと。学級づくりのことも大事にしないねっていうことを言いたい。いいでしょうか。

そのために2条件がある。それは最初に言ったルールと触れ合い。これが理屈ですね。アブラハム・マズローで説明ができる所があるかなあと考えています。下位創設による説です。違うと思ったら、また違うの入れてみてください。私はこれがそうだなと考えています。

誰もが自己実現の欲求があるでしょ。こんなふうに生きたいな、こんな仕事したいねえ。こういうふうになっていう思い、ありますよ。でもそれが出るには、下の所が部分的にでもいいけど、クリアしないと、上が出にくいって言う説です。

一番下、飲みたい、食べたい、眠りたい。引っかかっています？皆さんが前にしているお子さん達。ひっかかりませんよ、日本の場合はね。豊かで平和な国だから。食べ物や飲み物で困らないんです、

日本の子は。

でも国によっては困りますよ。将来、医者になりたいとか、こんな生活したいの前に、まず水が欲しい、布団が欲しいとかね。ベッドとかでしょうか。

でも日本の子は違う。と言いながらも、これに引っかかる子が日本でも増えてきたのは悩ましいところです。それは虐待ね。虐待、これが引っかかっていますよ。でもそれば教師の守備範囲を越えています。福祉連携とかが必要になるという子たちはいますが、多くの場合はこちらの附属校園、幼稚園、小中学校、特別支援の方に来てる子たちはもうクリアしたと思っていいでしょう。学校に来てるから。

だから2層目の安心、安全の欲求ですよ。だれもが嫌なこと、されたくないんですよ。安心してこのクラスに居たいんですよ。馬鹿にされたくないんですよ。答えましょうよ、プロなんだから。ルール、マナーでしょ。それを押さえていくことしょ。しっかり、ちゃんとルール、マナーによって安心、安全をね。これが第2層。

その次、所属したいこのクラスに。愛されたいよー、先生にも、みんなにも声かけてということでしょ。4つ目が正に認めて、みんな賛成して。3層、4層、私はまとめていいと思ってる。承認欲求でしょうね。どうですか？

これが最初から言っている言葉に整理するんだったら、やっぱりソーシャルスキルに、かなりこの安心、安全はこうやって影響及ぼしているっていうか、関係してるし、承認欲求は正に自尊感情。認め感ですと思っています。どうでしょうか。私はこんなふうに見ている。アブラハム・マズロー、昔からもうずっとね、それこそ自分が採用試験受けた頃から出ている知見ですが、やっぱりそうかと思っています。

だから、まずルールなんでしょう。昔から言われてますよ、ルール大事だよって。今も言い続けるでしょう。一発で入る子もいるけど、入らない子もいるでしょう、いろんな事情によって。だからルールなんですよ。ほら、「I think」の前には理論が必要。マズローをもってくれば、やっぱりルールだ。まず、ルールじゃないと話し合いなんかとてもできない。認めよう、高めようとしてもね。まず、ルールだ。明日からまたルールと、やっぱり強く言えるんじゃないですか。私はそう思ってる。このブレがちょっと減ってくるんですよ。これを知ることによってね。「I think」の前には理論が必要。その一つです。資料、変わりますよ。

ステップ3に行きますか。自尊感情、ソーシャルを学級づくりの中で、もちろん授業作りの中でもアプローチしていけばいい。いろんなやり方があります。出しますよ、私のやり方をね。資料、変わりますよ。まず、ルールからいきます、ルール。さっき、沖縄の先生の話もしましたが、ルール作りの方からいきましょう。技をお伝えします。

話を聞くっていうルールを私はね、第1ルールにしたいと思っている。担任に今戻るんだったら。大学の授業でもそう言ってます、この授業で第1ルールね、お願いしますねって。私語を慎むとは言っています。要は話を聞くっていうことです。話を聞くっていうふうに言ってるし、ここに書いてある。クラスのここに、掲げてある。決めてるのに、言ってるのに、でも授業中に後ろの方で特に、ガチャガチャガチャガチャいつまでもしゃべってる。話聞かない。そういう子がいたとします。その子に皆さん、どういうアプローチをかけるんですか？こっちは聞いているのに後ろでしゃべってる。ルールがあるのにね。はい、一言、言葉はスリムに、ポン。お隣の方を中心に30秒、私はこう言うなって。そんな子になって言いますか？いきましょう。よーい、スタート。どうぞ。なんて言いますか？はい、そこまでにしましょう。

私の考えを聞いてください。いろんな子どもの前に立ちましたからね。私、小1から高3、今の大学生まで私は、担任したことがあるんですよ。それがとてもありがたいこと。かける言葉の違いっていうのを体験的に気付いた。小っちゃい子と上の人にかける言葉はね。

優しい時がありますから、優しい時はこうですよ。ルール違反なんか逃しませんよ。昔からアンテナはかなり高い。ルール破りは絶対逃さない。ピーン、反応します、後ろの方に。優しい時は「うるさいよ。黙って、君は出て行きなさい〜い」、優しい。いつも優しくないですよ。カチンと来るでしょう、イライラが募るとね。もうこうなりますよ。「黙れ、出て行け、うるせえ」6つ言いました。今、何かが共通してる。優しくったり、強かったりしただけ。私たち大人はそういう言い方ばかりだから。私はそうだった。今は何が共通してましたか？今の言い方はね、何か共通してた。6つに、確認しましょうか。30秒、よーい、スタート。はい、そこまでにしましょう。

もう1回言いますね。優しくめにね「うるさいよー。黙ってー。出て行きなさい」「黙れ、うるせ、出てけ」。みんな文脈に「あなた」が入ってる。「You」が入ってるの。お前は、お前は黙れ、お前は出て行け、お前はうるさい、君は。だから「You メッセージ」と言います。「あなたメッセージ」とか、あるいは「You メッセージ」。しかも、嫌な感じで入るから、対決の You とか、マイナスの穴場って言うんです。

それをゼロにしなくていいんですが、そればかりでは。親としても、教師としても私はそうだった。子どもは育ちませんよ。ルールはそれだけでは入らない。大学生に私はそういうと思います？100人、200人です。大学の授業で、たまにうるさくなります、後ろの方が飽きてくると。今みたいに、「うるせ、黙れ、出てけ」って言うと。まあ、効くでしょうね。でもこうやって、恨みみたいにして、イライラしてね、「このやろう、曾山うるせえな。単位もらうまで黙ってようぜ。でも卒業の時はみんな袋にしようぜ」。いやいやいや、対決したくありませんから。

中学生とかもそうですよ。小学校の高学年もカチンカチンと来てますよ。先生方が怖いから黙ってるんでしょうけど、カチンとは来てますよ。私はこう言ってます。大学生には、見逃すことはありません。やりにくくてしょうがないから。「ちょっと、そこいい？話しにくいんだけど。ありがとう」「そこいい？ちょっと困る、授業やりにくくて。ありがとう」で止めます。気づきました？さっきのヒントにして、何が流れてましたか？よーい、スタート。確認。

出ました？はい、そこまでにしましょう。行きますよ。「ちょっと後ろの人、いいかな、そこ。話しにくいんだけど。ありがとう」「そこいい？その真ん中の人。そこいい？ちょっと困る。授業やりにくくて」と言うだけ。「ごめんなさい、先生、話しちゃって！」の今のは何？私ですよ。私が話しにくいんだし、私が困ってるんだし、私のメッセージ、「I メッセージ」と言います。「Me」じゃない、私。しかも、嫌な感じであることがやっぱり入るから、対決の私とか、マイナスの I メッセージと言います。これも交ぜましょ。万能じゃないけど、これも交ぜようていうこと。

3つ目はこれ。もう一本のアンテナが必要。ルール守っている時、どうします？ちゃんと聞いている時があるじゃないですか。ルール通りにやってるこの子たち。30人、40人、はい、その子たちに取って言葉かけてみましょうか。皆さん、なんて言いますか。はい、15秒。よーい、スタート。なんか言ってください。はい、そこまでにしましょう。

私を聞いてください。子どもって褒めて育つと思いませんか？私、褒めまくってましたから。小っちゃい子の担任多くて。聞いているんだから、こうですよ。「偉いねえ」。ここでは偉いしか言わない。「偉いね、偉い、偉い」と褒めまくる。あと学校生活で褒めたいこと、いっぱいありますよね。こういう言葉多かった。「すごいね、上手、さすが。すばらしい」。これが褒め言葉。気づきましたか？今

のは何が流れてたんですか？さっきのヒントに10秒、確認。今のは何？もういいですか。もういいですか。もう1回言いますよ。「偉い、すごいね、上手、さすが、すばらしい」

お前はだから。君は偉いね、君はすごいね、君は、また君は、Youだ。今度はプラスの肯定の「Youメッセージ」。ほら、私たち大人、youのメッセージばかりなんです。叱りも褒めもね。大学生に私は言うと思います？聞いている、20歳前後の子たちに。「君ら、偉いねえ」言ってる自分が恥ずかしいわみたい。褒める筈ないでしょ、大学生に。中学生とかに褒めたら、「先生、慰めおつもりですか」って言われちゃいますよ。女の子なんかに効きませんよ。特に、女の子にね。

私は大学生にこうですよ。聞いている時ありますもん。いい子たちですもん、名城の子たちも。「わー、みんな、ありがとう。おー、うれしい、助かる、授業進むー」は誰？私でしょう。ほら、今度はね、プラスのね、「Iメッセージ」の今度はプラスですよ。

4つ目はこれ、何も言わない。サインでね、出します。2つのアンテナが必要なんです。ルール違反、順守の方もね。この2本がない、私はなかったから。上しかなかったし、しかもYouばかり。子どもは育ちませんよ。すべてのルールはこの2本のアンテナですよ。

曾山学級第2ルール。時間を守ろう。破るじゃないですか。はい、上対応。ちゃんと来る時もあるじゃないですか、下対応。第3ルール、優しい言葉を使おう。てめえ、死ぬ、うざい。あららら、はい、上対応。ちゃんと言う時もあるじゃないですか。下対応。すべて2本のアンテナでルール、その辺は教えていくんです。私はなかった。2本目はなかった。皆さんはありますか？

いろんな学校回っていくとね。気になる子がですよ。頑張っ45分授業の35分ぐらいまでちゃんと座ってやってるんですよ。その時は何も言わないで、最後の10分飽きてきて、姿勢が崩れるんですよ。その時、先生黙ってませんもんね。「はい、姿勢」とかって。先生、その前30分間、ちゃんとやりましたけどと言いたい。

ほら、私たち大人はね、ちょっと下のアンテナが立ってない感じが私にあった。皆さんはどうですか？2本のアンテナを立てましょう。すべてのルールは、私は2本のアンテナかなと思っています。

障害特性、自閉タイプに「Iメッセージ」は効きが悪いですよ。万能じゃないんです。自閉の子がしゃべってます。「Iメッセージ」使うかな？対決版「ちょっと、いい？話しにくいんだけど」は「それで」って言われちゃいますよ。「それで」。察し悪いんだから、多くの子は聞くんだけど、自閉タイプはそういう特性があるということ。その子には具体的に教えましょ。「こっち向いて。そうそうそう」とそういう特性の違いです。万能じゃない。

あとは年齢的に10歳までが、だいたいYouは聞きがいい。小っちゃい子には褒めが馴染むんですよ。「偉いね」「すごいね」は上にはなじまない。10歳を越えるとね。あとは発達段階、思春期まで。Youが馴染むとしても。思春期までです。思春期っていつスタートするんですか？いつ、終わるんでしょうね。一つの幅を言いますよ。個人差あります。次に出てきます。

思春期いつスタートして、いつ終わるんですか？はい、15秒確認。用意スタート、どうぞ。思春期。出ました？はい、そこまでにしましょう。短くてごめんなさいね。

中学校から思春期じゃないですよ。中学生はほぼみんな入るんですよ。早い子は早いんですよ。だって、これだもん。出します。第2成長の発現。ほぼね、10歳に合うでしょ。女の子が早いんですよ、大人の階段のぼりが。終わりもまたね、女の子が身長がだいたい止まる頃がまた安定に入るっていう感じ。男の子はずれるでしょ。難しのは5、6年の先生、難しいと思う。混在するから。女の子がね、大人っぽいですよね。男が幼いじゃないですか。男はだって、いつまでも「僕のこと、先生、褒めてください」って、「どんだけ幼いの君は」。5、6年の女の子に偉いねなんて禁句に近いですよ。私、

中学生担任した時に、女の子、褒めまくってたら、ほんとに嫌われた感じですよ。「先生、慰めは止めてください」とかって。「私が駄目だからですか」と深読みしているの。いやいや、ほんとにそう思っているから効かない。

でも男ってね、一生褒めが馴染むと思います。だって、私、未だに妻に褒められて嫌じゃないですもんね。「あなた、偉い」とかって言われて、嫌じゃないの。むしろこの頃褒めが足らんみたいなね。大人なっても男ってちょっと違うのかもしれないな。大学生見ても幼いなって思う、男の子は、どうですか。千差ありますよね。掛ける言葉をちょっと変えていきましょ。

これ、境はそうなんだけど、強めに言いましたよ。褒めて育てるのは大ウソだと思っているのです私、効かないっていう意味ですよ。だって褒めまくったら、どんどん落ちていく子がいるんだもん、「私が駄目だから」みたいな。

じゃあ、こういう時どうします？とってもいい子、小っちゃい子がゴミ、自ら捨てる子いるじゃないですか。廊下とかで、こちらの小学校だっているともいますよ。自ら捨てる子、いい育ち、右上がり曲線。私、その子褒めまくったんですよ。偉いから、「偉いね。偉いね。抱っこしよう、偉いね」って。落ちる、落ちる、落ちる、落ちる。どうなると思いますか。だってこうなるんだもん。捨てる時に、「あれ、曾山先生、見てちょうだい、先生、拾いますから」「さっさと拾えや、お前。自分でやってたじゃねえか」。ほら、私が褒めたことによって、落ちる子どもがいるということです。だから、褒めは効くんだけど気を付けましょ小っちゃい子たちに。褒めも万能じゃないの。いいでしょうか。

ということで、思春期。こんなイメージです。大嵐の時の船に乗ってる乗客ね、子どもたちが。思春期の子がいるでしょう。投げられますよ、大嵐だから、海にポーンって、日本海に。沈みますよ、下手すると死にますよ。助けに行く大人になりませんか？親としても教師としても、自ら泳いだっていいでしょ。助けることできるから。泳ぎが苦手だとやめといたほうがいいです。一緒に沈んちゃうから。浮き輪投げた方がいい。ほら、ほら、助けることができる。

その泳力や浮き輪が知識や理論や技法ですよ。どれくらいありますか、今。みなさんの泳力は？浮き輪は？ベテランであればあるほど、泳力は付いてますよ。私以上の方はもちろんいらっしゃる。浮き輪の数だって違うんですよ。お若い方はそんなにないです。それはこれからなんです。本を読むことによって、あるいは研修によって泳力はついていく。浮き輪はね、私は今日2つだけ渡したい浮き輪がこれですよ。「Iメッセージ」と「勇気づけ」だと思っている。

「Iメッセージ」。さっきから言ってるでしょ。YouとかI、これは親業っていう理論があるんです。トマス・ゴードンのね。よかったらそちらをお読みください。

「勇気づけ」をアドラー心理学やいろんな概念が語ってますよ。共同体感覚とか、いろんなものがあります。私はこの「勇気づけ」の概念が好き。『嫌われる勇気』っていう本があるでしょ。そこにも出てきます。私たちも勇気を問われています。課題に向き合っていくっていう、一歩踏み出す。そういうのを「勇気」と言ってるんですよ。簡単に言えば。

それを付けることが3つある。『嫌われる勇気』にも出てくる、3つの言葉、勇気づけの言葉。私たちにも欲しい、子どもにも出したい。それは「ありがとう」「嬉しい」「助かった」。「ありがとう」。気付きました？同じじゃないですか。プラスの「Iメッセージ」ですよ。ゴードンが言っている親業で整理するんだったら、アドラーで言う「勇気づけ」の同じ言葉が出てくるんです。「ありがとう」「嬉しい」「助かった」は最強の言葉だと思っていますよ。

特に一つに絞るんだったら、私は「ありがとう」にしたい。「ありがとう」は最強にして最高にして、幸せっていう意味では最高な言葉でもあると思っている。「ありがとう」は最強、最高の言葉だ

と私は思っている。素敵な日本語何No.1にもなったことがある。私はやっぱりそこに投票したい。子どもの耳、口、体に「ありがとう」を私はなじませたいと思っている。そのためには我々大人が使うしかないんですよ。学級を学校を地域を日本を「ありがとう」で埋め尽くしたら、今よりもきっといい学級になるし、いい学校になるし、いい地域や日本になると私は思っている。どうでしょうか。私たちが使っていきましょう。昔はさんざん入った、そういう言葉が。今それが入りが弱いから、私たちが言い続けるしかない。

皆さん、夜中に口笛吹きますか？夜中に口笛、吹きますか？私ぐらいの世代はね。だって、蛇が出てくるって言われてるから。夜中に爪、切りますか？なかなか切りにくいですよ。だって、親の死に目に会えないって言われてるから。会えないよって。なんで、それ未だに覚えているんでしょうね。いっぱい言われたからでしょ。50の半ば越えたって憶えているぐらいだから。誰がそれじゃあ、今言うんですか。子ども達にありがとうの大切さを。爪のこと、切っちゃいけない。私たちが言いましょうよ。いろいろ言葉を変えながら、どうですかということをお願い。

では、資料変えますよ。危ないなあ、もう4時を回ってますね。4時20分までですもんね。危ないじゃないか、資料がまだ残ってるのに。広がります。触れ合いにいきます。私は居場所、居場所って言いましたが、もっと馴染むのは学級という旗を織り上げればもっと馴染む。

何故かという出身が群馬県の桐生という所だから。知ってます？西の西陣、東の桐生って言われた織物の町の出身ですよ。母親は機織り職人です。聞いたことがありました。「どうやって旗を織るの」って。まず縦糸を織るって言われましたね。その後横糸をこうやって織って、仕上げるって聞いた時、同じじゃないのって。

担任とすれば、まず子どもとの縦糸ですよ。なかなか織れないのもあるし、結ばれないのもある。切れちゃうのもあるけど。いずれ縦糸。それだけでは学級はまだ旗にはなっていない。子ども同士でしょ。横糸を織り上げていって、びっしり縦も横も織りあがったら私の学級は完成、旗として。皆さんは今、3学期制だとすれば、もうこの時期、どれくらい織りあがりました？担任として。チェックでしょうね。まだまだ時間が、少しね、もちろんまだ1カ月ちょいありますから、織り上げていくのもいいでしょう。私はそういう意味で使います。

縦糸、横糸の話が出てきます。資料、変わります。縦糸。私はこれだと思う。絞ってみました。すべてのこどもにやっぱり声をかけていかないとねえ、縦糸って織れないよねって。でも状態のいい子っているでしょ。はいはいはい、いっぱいボール投げてるんですよ、私たち。あと状態の悪い子ですよ。今日のテーマ。叱りも褒めも結構もらってますから。一番かわいそうなのは真面目に聞いている子ね。静かにこうやって。その子もグローブ持っていますが、下に隠すようなイメージなの。いろんな学級見て回るとあらら、持ってるけど下に隠してる感じ。その子たちにボールあげないと、おとなしい子、このグローブは捨てますよ、だって、いらないんだもん、ボール来ないから、手ぶらで聞いているねって感じの子はいっぱいいる。

でもその内、繰り返されると学校にも、そのグローブを持って来ない子っているんですよ。手ぶらできてるの、こうやって、静かーに。それがまた繰り返されると今度は何を置いていくと思います？グローブで済みませんよ。何、置いていきます？体を置いていきますね。不登校としてね。それぐらい大事。

気になる子には5倍も、10倍も言葉が必要な子がいるんです。家庭的にちょっと苦しいとかなると、褒めも認めも5倍ぐらいやりたい。でも担任がやったら、アウトに近いですよ、学級崩れる、確

実に崩れます。依怙最眞に見えるからね。じゃあ、どうしましょうか。

明らかに必要。その子には5倍も、10倍も。だからチームでやるんでしょう。校長先生に頼んでおく、よその先生に頼んでおく。廊下で頭撫でてもらう。その子はさよならって帰る時には、他の子に比べれば5倍も、10倍も。だから、みんなで学校全体で言葉かけをするんですよ。それが必要。

アンケートQ-U、ご存じの方はQ-Uで下の方にいる子っているんですよ。認め感が、その子をずっと意識して上げていくと、今度は最初に上に居た子が下がっちゃうんですよ。同じですね。いきましようか。子どものいいところ、気になる子も含めて、やっぱり溜めておきましょうよ、長所とか、私たちはできるところ、好きなどころ、特異な所を褒めていくの。馴染むんだから。で、勇気づける。認めバランスによって。言葉をかけていきましょう。

関係作りの第一歩は相手の関心ですよ。すべての関係において、関係作りの第一歩は相手の関心。子どもの関心に持って関わっていかないと。なんでこんなこと言うかという、三重県の学校に研修に行ったら、若い先生がある男の子と関係できなくて、「どうしたらいいですか」と聞くもんだから、「その子、何が好きなんですか」と聞いたら、サッカーが好きだって言うんですよ。「えーっ、じゃあ、先生、サッカーやって遊んでやればいいのに」と言ったら、こう言ったんですよ。「おれ、サッカー、あんまりサッカー好きじゃないんですよ」と言うから、思わず出そうになりましたもんね、止めたけど。「おめえが好きかどうかなんて、どうでもいいんだよね。その子が好きならやりゃーいいだろう」とう。

上手い、下手は問わないので。好きだったのね、「えー、サッカー好きだったの、誰のファン？本田圭佑か、そっかそっか、先生はちょっと古いなあ、三浦カズだけどさあ」と言えばいいじゃない。「教えて、教えて」と。「サッカーの先生になってください」みたいに、関わってあげばいいのに、それができないからどうでしょう。その子の関心がサッカーにあるんだしたら、そこに一歩踏んだらいいのって、どうでしょう。言葉はね、そんな風には使わなくて、「一緒に遊んだら」っていうぐらいに言ったんですけど、どうでしょう。親との関係もそう。同僚との関係もそう。一歩踏みましよう、私たちはね。資料変わりますよ。横糸。

これ、横糸に関係します。特定の関係をしています。ずっと中1が荒れてた学校なんです。700人規模の大規模の中学校です。そしたら、不登校が、29年度今年度の1学期ゼロになりました。新聞がその情報を聞いて、取材に来たの。ここでやってるものをちょっと紹介しますから、簡単なものです。しかも小中連携です。是非、ここの校区でもやったらいい、ここではやれるんだから、体制的に。

それは小学校4校集まるんですよ。中1のトラブルがずっとすごいんですよ。それはわかりますよね、なんかね。結構、トラブルが。それを埋めてみました。このやり方によってね。

横糸は短時間のゲーム的なものを週1回しかやりません。私はエンカウンターを國分先生に学んでいるし、ソーシャルスキルトレーニングっていうのは特別支援でずっと前からありますから、その辺はちょっとミックスしたものを先生方とやってるんです。

触れ合いづくりの花火を打ち上げたい。しかも、負担感がなくやりたい。私たちも子どもたちも。週1回しかやりません。さっきの学校は10分しかやってないですよ。花火を打ち上げる。でも消えないように授業の中で国語の中でもちょこちょこつとそれを挨拶から、うなずきって意識してやってるっていう、連動させてるんです。花火が消えないようにね、火がね。そんなふうやって。

まず、やってみましようか。まずちょっと楽しいのでやってみてください。2人か3人で結構ですから。大学生版を紹介しますから。大学生にもやってるんです。アレンジすればもちろん小学校でも

できるんです。「アドジャン」と言います。アドは足す、英語の addition とか additional。ジャンケンの造語。サイコロトクってあるでしょ。サイコロを振って、あれ、1～6のお題でしょ。サイコロ使わないの、手間だから。指だけ使います。皆さんにはない。いきますよ。このシート、大学版、大人版です。

アドジャン。0から9まで10項目。これは大学生にアレンジしたものだから、小っちゃい子はもっと簡単にすればいいですよ。0が出たら出身地。今食べたいもの、最後9だったら、ちょっと自慢ね。この程度です。そんな大変なの、やりません。あなたの夢はなんですか？なんでここで言わなくちゃいけないんですか、みたいな。生まれ変わったら何になりたいですか。そんなの聞かない。やり方、こんな風にやります。ちょっと形だけやりますから、皆さん、見てください。2人でもいいです。クラスだと3人、4人でやるんですが、今日はもう2人でもいいです。3人でもいいです。5人までいらない、ちょっといいですか。形だけ。先生、ちょっといいですか。3人だとしましょ。私と先生と先生。私が3人だとする。手がね、これ、ゼロ、1、2、3、4、5、6通り出せる。好きな指を出してください。上げてくださいね。3人でやってみます。皆さんは見るだけ、アドジャンの掛け声で、好きなの出してい下さいね。「アドジャン」、上に出して、見えるように、ちょっと上に出して。足すでしょ、5だ。5とお題決まりました。今の職場の売り、私は名城ね。「私から言いま〜す」って、こう言って、2番、3番って決めておくれ。こっちはルールがあって、私が何言ってもうなずくだけなの。なるほど、そうなんだね、なんとかなんだ。えーって言うのは無しだから。それがルールなの。

私だけやってみます。私、名城のいいところ、いっぱいあるんですが。もう施設が抜群に綺麗な所です。以上です。2番の先生が、やっぱり教師同士が仲がいいかなあ。子どもがなんかハツラツとしてるな。ほんとそうなんだと言うだけ。質問もしない。サラッと終わるんです。

また、お題が変わる。もう1回だけ。せーの。「アドジャン」。9、でたー、ちょっと自慢。じゃあ、私から言います。こうで一すって。ドライブがどこでも何時間でも運転出来ちゃう。料理だったらなんでもねえとか、こういう訳ですよ。あ、そう。やり方わかりました？すぐ終わるんです。だって、90秒しかやらないから。3つか、4つしかいかないの。でも1回、ここには入れてね。そうなんだ。これぐらい。やってみますか。楽しいから。大学生、大人気だから。きっと皆さんの子どもたちにもいいと思います。

答え、用意してくださいよ。私は言いますから、これぐらいの答え。出身地と聞かれれば「群馬県桐生市です」「そう」「今食べたいものは」「久々に来たので稲庭うどんかな」「えー」「好きだった」「体育、体育です」「趣味ね、好きなこと」「私は今外国に一人で旅行に行くのが大好きなんです」で、どこにと聞かない。「えーっ」で聞くだけだから。芸能人かスポーツ選手、どっちかでいいですよ。私は芸能人でいきますからね、薬師丸ひろ子です。大好きなんです。大学生に言ったら、誰だ、それ、知らないの？あの有名な人って。職場の売り、言いましたね。映画でいく。どれか一つです。私はこれかな。『八日目の蝉』、あれが今のところ一番。誕生日、昭和何年言わなくて結構ですから、ちょっと昭和、私は2月3日生まれ。この間節分でした。えー。休みにしたいこと。喫茶店が好きなので、喫茶店めぐりにいきたい。最後、ちょっと自慢ね。思いっきり自慢すると嫌な感じになるから、軽く押さえ目に。私は小1から高3まで皆勤の人間なんです。だけど早引きは結構あって、無理無理行ってたタイプ。だからちょっと自慢。以上です。

ほら、これぐらい。なるほどって聞くだけ。やり方わかりました。90秒しかやらないから。3つか、4つしかでないんです。2人でやっても3人でやっても。でもね、どうしてもいいにくいのある

でしょ。パスは1つか、2つ、いいです。「芸能人って聞かれて、よくわかんないから、ごめん、俺、パスで」。他の人は言う。1つか2つですよ。全部出るものをパスすると友達関係、恐らく無くしますよ。これくらいだから、やってみましょう。やり方わかりました？順番を決めて、2人だったら交互に。指を足す。10だったらゼロ。11だった1、もう1回同じのが出たらやり直し。答えは短く。やってみましょう。

体験、はい、各チーム。よーい、スタート。「アドジャン」

はい、そこまでにします。切りのいいところで、そこまでにしましょう。ちょっと短めにします。終わりました？切りのいいところまでいいですよ。3人やってて、4人目の自分が、芸能人ネタでてきてて、3人やってて、自分で切っちゃったら嫌じゃないですか。薬師丸ひろ子までは言って、終わりたい。切りのいいところまでやって。

ここで切ります。これくらいできるんです。私は子ども達は遊びね。私は遊んでませんよ。こう言います。君たちのうなずき、先生以上。挨拶がいいねえ。どのチームも。スキルトレーニングしてるの、トレーニングなんて一言も言ったことないですからね。でも私はそれを言わない。私の中に入れてるだけだから。子ども達は遊んでる感じなの。関わりのゲームやってるの。その中学校もね。私は遊んでませんよ。

じゃあ、ここからエンカウンターに入ります。子どもにエンカウンターなんて言わない。いわゆるフリートーク。今出たお題が3つ、4つあったでしょ。さっきはうなずきただけ。でも？が浮いたでしょ。なんで薬師丸ひろ子が好きなんだろうなあって、？。一番、寂しいのはこれね。薬師丸ひろ子どうでもいいです。いや、聞いてちょうだいよ、言いたいことはいっぱいある。関心持ってほしい訳で。なんで好きなの？って聞いてくれたら、いっぱいいいことがある。声が最高いいし、あまちゃんなんてずっと見てたし、とかね。オールウエーズ3丁目の夕日、あの主役は私の中では薬師丸ひろ子と言えばいいだけですよ。ワイワイガヤガヤ、3つでた、4つでた。ここの、もうアドジャンはやりません。お互い出たことで、もうちょっと言いたい。ちょっと聞きたかった。ワイワイガヤガヤ、2分間だけ。一人、2分じゃないですよ。うまく使いながら2分。お題からずれないでくださいね。最近お宅の学級の状態はどう？それは研修違うので。この後になるのかな？いきましょう。2分間ワイワイガヤガヤ、よーい、スタート。はい、どうぞ。

はい、これもちょっと短めに切りましょう。ごめんなさいね。そこまでにします。声が届きます？大丈夫ですか？2分やれずに申し訳ありません。時計の方みるとね、2分やったとしましょう。これがエンカウンターね。子どもには言いませんよ。エンカウンターって“出会い”っていう意味ですよ。今確実に出会ったものが2つはありますからね。自分に出会ったでしょ。えっ、こういう遊び好きな自分いるわとか。ほんとはこういうの嫌いなんだけどさあって自分がいたとか。相手のこと見ることできないなあ。結構いいなあとか、価値観も含めて、自分に軽く出会ってる。自己へのエンカウンターが一つ。

相手にも出会ったでしょ。2つ目。えっ、この人、うなずきすごいいい。価値観似てる。自分とは真逆。なんか人のことあまり好きじゃないのかなあ。大好きなのかなあ、こういうのっていうの、っていうのがちょっと出会いますよね。相手にもエンカウンター、出会ってるの。2つはね。

あと3つ目に出会う時もある。人生に出会う時もあるから。生き方、あり方っていう意味のね。人としての生き方、あり方。

そのエンカウンターを基本的にグループでやるから、グループエンカウンターっていうんですよ。

國分先生が学校にこれだけ広めたのは、構成法ですよ。構成的なグループエンカウンターと言います、正式には。構成は枠のこと、私、好き勝手にしゃべってなんて言ってないでしょ。これ、そのものが枠だから。これがエクササイズと言います。いろんなものが出ている、本で。ゲームみたいなもの。エクササイズ、演習ですよ。これが枠ね。

2つ目の枠、人数を決めた。今日は2人か3人ぐらいでやってくださいね。7、8人が要る訳じゃない。

3つ目の枠、私がうるさいように時計で時間切ったでしょ。時間の枠、その中で出会うようにしてるんです。

集団カウンセリングの理論であり、技法のひとつですよ、エンカウンターもソーシャルスキル・トレーニングも、それを混ぜ込んでいるだけです。子どもには言ってません、どうですか。これを週1回10分やってるの。アドジャンだったら、最初の1週でこうやって、これ、1カ月続くんですよ。ルール2回目は言わなくていいでしょ。またアドジャンって言うから、はい、メンバー変えて、違いを楽しめっていうだけ。3週目はさすがにお題変えました。4週目メンバー変えて、何の手間もないじゃないですか。

これが1学期。2学期にもやればいい、3学期、こんな遊びが3つか4つで済んじゃうんですよ。どんどんスリムになっていくの。10分です。でもこれでうなずきとか、入ると思いますか？花火打ち上げて、入らないでしょ。だから国語の授業とかで、「はい、じゃあ、いつもの何とかタイムみたいに挨拶からね」「おー、うなずいてみようか」っていうだけですよ。これからのアクティブ・ラーニング系の動きには、この辺の意図が繋がってないとおそらくできませんよ。どうでしょうか。

だからおそらくこの桜ヶ丘は今アクティブ・ラーニング系のことも、もうばっちり出来ちゃうの。どの学年も男女で関係なくしゃべれるからですよ。どうでしょうか。っていうのを新聞記事にも載ってますから、良かった手間なくやりたい。エンカウンターがいくら良くて、毎週とか、毎日とか毎日とかやれないでしょ？長い時間だって嫌な子はいますよ。

では、もう危ない、あと2分ぐらい。資料、変わります。理屈はこれ？読んでおいてください。今、これ、しゃべってたの。アメリカから来たやり方。もっといい言葉がある。山本五十六元帥のSST話、「してみせて、言って聞かせて、させてみて、褒めてやれば人は動くし」。これをやってたんですよ。してみせればいいんですよ。言葉、うなずき、言って聞かせればいいじゃないですか。分かる言葉にして、させればいいでしょ、こんなふうにして、褒めたり、認めたりすれば、きっとね。身につく。

ほら、アドジャンだったら、例えばうなずきにターゲットを置くとか。これがSST。エンカウンター、これ、資料変わります。感情の教育ね。行動ではない。だからこの後ほんとは、ほんとはシェアリングやるんですよ。何、気付いた？何、感じた？気づきの分かち合いまで、ほんとはいきます。今はそこまでやりませんが。ほら、自分に気づく。メンバーに気づく。理解ということでもいいです。これがエンカウンター。では資料変わります。

これが理論的背景です。子どもには言わない。

鳥取の桜ヶ丘、こういう実践が進んでます。私は科研費をちょっといただいているので、3年間でここをまとめあげようと思っています。まとめて論文にして、本にして、いろいろアピールしたいかなと思っています。それくらいいい学校になっています。よかったら視察に来て下さい。私は年間かな

り入ることになっています。よかったらどうぞ。資料、変わりますよ。

終わりますか。まとめましょう。ハンカチ童話を言っておきますね。今日のテーマで、これ学級、ほつれた糸があります。私はほつれた糸、気になる子をずっと持ちあげたタイプです。学級、崩れま
すね、切れるから糸が。どこ持ち上げたっていいでしょ。学級全体をハンカチとして。気になる糸は
持ち上がりますよ。親の力、先生の本からヒントを得た「ハンカチ理論」です。どうでしょ。

ハンカチ、持ち上げましょ。気になる糸だけ持ち上げると学級は崩れていく。全体を持ち上げる、
ということで「ハンカチ論」と言っています。

今見てる景色、悪くないですよ。皆さん、かかっているお子さんね。えー、まだここら辺か、登山で
はなあ。5合目か。早く、急げって」と言うところの子潰しますよ、自分も潰れますよ。ダメな、俺、
でも1学期比べれば去年に比べれば結構上がってきたね、一緒にね。そしたらその子を褒めることが
できる、自分も認めることができる。また一歩が踏めるでしょうね。今見てる景色、決して悪くない。
どうでしょう。

3つ目、外山滋比古先生の『思考の生理学』に出てくる言葉です。私はこう解釈します。「ひとつ
だけでは多い」です。最初から言った。私の考え、100じゃないですよ。だから摺り合わせしてく
ださい。私、國分先生は師匠ですよ。國分先生、大好きですよ。教育の引き出しが10あるとして、
ほんとは國分、國分、國分、全部埋めたいんですよ。でも、そうするとこれから聞く他の人の話が全
部敵に見えますね。そうならないようにしてます。いくら良くても、3つぐらいの引き出しは空けて
おく。まだまだ学びが止まらないようにね。ということで、1つにするとまずいですよということ。

たまにそうしてる人がいるからですよ。エンカウンターしか言わない人がいる。Q-Uしか言わな
い人もたまにいます。アドはしか言わない人もいます。法則化のことしか言わない人もいます。それだけで
できるはずないでしょ。教育がね。私たちは引きだしの勝負だと思っている。どうでしょうか。

研究者になるんだったらね、それだけ追いかけるのでいいでしょう。学校の教員は違うと思ってい
ます。どうでしょう。私も気をつけている。

では、時間ですね。あと参考文献。お約束で。自分に関係するものだけを赤くしてありますから、
良かったら、読んでください。これ、福井でね、私の本から試験問題作られたんだって、「えー、今
度解いてみるかな」と。自分でできなかつたりして。ホームページもあります。今日、質問をお受け
できなくて。ただ、今日は私はまだ秋田に今日もいるので、何かあったらどうぞ声かけてください。
あとは参考文献だけです。この辺、参考資料、良かったお読みください。ご清聴、ありがとうございました。

▼附属特別支援学校跡部教頭

曾山先生、どうもありがとうございました。ほんとうであれば、ご質問、受けたり、もっと曾山先
生に伺いたいこと、もっと時間とりたいところですけども、残念ながら今日はここまでということで、
お手元にアンケート用紙、お配りしてますので、是非それに感想等書いていただければありがたいと
思います。

曾山先生は残念ながらここでご退席になります。もう一度拍手で感謝したいと思います。どうもあ
りがありがとうございました。

研修会（講演会）アンケート結果

回収 学部及び大学院教員 14 幼稚園 6 小学校 11 中学校 12 特別支援 21 総計 58

1 曾山和彦先生の話で印象に残ったことについて（複数回答で）

| | | |
|-----------------------|----|--------|
| □気になる子の理解について | 22 | (37.9) |
| □自尊感情やソーシャルスキルの育成について | 46 | (79.3) |
| □教師と子どもの関係づくりについて | 35 | (60.3) |
| □子ども同士の関係づくりについて | 32 | (55.2) |

2 本日の講演の感想を自由に書いてください。（自由記述）

- ・とても参考になりました。大学でも授業に活用できるものでした。2
- ・曾山先生の実践に基づいた話がとても参考になった。
- ・具体的な事例を含めながら、分かりやすい講演だった。2
- ・実際のワークも楽しく参加できた。
- ・「ありがとう」を大切にしたい。
- ・「人は人と関わらないと人にならない」という言葉に納得した。
- ・私の学級にも社会性に難題を抱える生徒がいるが、他者と関わらせる活動を取り入れることで、社会性を育てていきたい。
- ・人との関わり方を再度意識化できた。
- ・明日からすぐ使えるトレーニングや技もあり、実施してみたいと思った。
- ・子ども同士の関係づくりについて、「ただ、うなづく」など簡単なルールの対話で改善が見られると知り、学級でも実践してみたくなった。
- ・自尊感情とソーシャルスキルを育むための技を教えていただいた。ユーメッセージとアイメッセージを上手に使えるようになりたい。
- ・アイメッセージ、ユーメッセージがとても分かりやすかった。
- ・アイメッセージ、ユーメッセージにも2種類あることと、相手に合わせて使い分けることを改めて考え直すことができた。
- ・アイメッセージとユーメッセージに関してとても印象に残った。
- ・ユーメッセージとアイメッセージによるソーシャルスキルの育成やアドジャンによる子ども同士の関係づくりなど、実践を踏まえて現場でも活用できそうなものを教えていただいたので、参考にしていきたい。
- ・ユーメッセージやアイメッセージは明らかに使っていけるようにしたい。
- ・アイメッセージとユーメッセージを意識して使っていきたい。
- ・学級づくりや子どもとの関わりで、アイメッセージとユーメッセージ、問いなどを心がけて活用している。子どもの特性や発達段階に応じてバランスよく使い分けていくことが大事だなと実感して

いる。

- ・「対決」「肯定」とともにアイメッセージとユーメッセージの違いを理解できた。
- ・エンカウンターやアイメッセージなど久しぶりに聞いたが、体験すると、改めて効果の高さを感じた。
- ・アドジャンをクラスでやってみようと思った。4
- ・アドジャンは人間関係づくりに有効と思った。
- ・アドジャンのようなSSTも学級づくりのネタとしてとても役立つと思った。
- ・SGEを行う中で、SSTになることを大切なこととして、改めて気付くことができた。
- ・3つのステップが分かりやすかった。
- ・「一つだけでは多すぎる」は全く同感である。
- ・具体的なスキル等を参考にしたい。
- ・ワークは自分もやってみてすごく楽しく感じたので、きっと生徒も楽しめると思った。
- ・話を聞くだけでなく、演習を通しての話が分かりやすく、「ああ、なるほど」と思うことがたくさんあった。
- ・気になる子への声の掛け方について、大変参考になった。
- ・目の前の生徒たちに声掛けの際のポイントや、クラスでの横の糸の織り方のヒントをたくさんいただいた。
- ・全員に話していても、自分の意見をどうしても話したくて言ってしまう生徒が多く、附中生ならではの思いながら、今後の高校生活が心配だなと考えてしまった。
- ・教育実習に学生を出すと、子ども同士の関係性づくりに悩むことも多いので、指導上のヒントをいただくことができた。
- ・子ども同士の関係づくりに生かしたい。
- ・特別支援教育だけでなく、様々な場面で役立つ、研究に使えるアイデアが豊富な内容だった。
- ・真面目に取り組むことはよいことであるが、ともするとそれが他者に対して圧迫感を与えていることもあるのではないかと反省した。
- ・大学教育の場でも十分適用可能な内容だった。
- ・おおよそ分かっていたが、かみ砕いて話してくれたので、自分の授業の中でも自然に技が出せそうに思った。
- ・大学でアクティブラーニングをやっているのだから、グループ・エンカウンターの話は参考になった。
- ・非常に具体的・実際的内容で、大学での授業や学生との関わり方へのヒントになりそうな話題があり、大変興味深かった。
- ・ルールとリレーションの大切さについて、再確認することができた。
- ・「話を聴く」というルール作りの技について参考になった。
- ・ルール作りの技について、もう一度自分のクラスの子どもたちへの関わりを考える時間となった。試してみたいものがたくさんあった。
- ・子どもたちに対して、どのような声掛けをするとよいか、とても参考になる講話だった。
- ・学級でのルール作りや日々の会話の中での関係づくりが大切と感じた。
- ・子どもたちが気持ちよく望ましい行動ができ、温かい学級集団になるように、今日の話を生かしたい。
- ・ルールの確立を生徒の目線でも考えながら、大切にしていきたい。

- ・生徒同士の関わりをもっと深めていきたい。
- ・子どもに応じた対応の他、学級全体へのどのような声や手を掛けていくとよいか、具体的に教えていただき、参考になった。
- ・人と人がつながることは、そんなに大げさなことではないが、私たちが身構えてはいけないと思った。
- ・合理的配慮（ユニバーサル支援）の具体例が分かりやすかった。
- ・全て心当たりがあるような、場面が頭に浮かぶようなお話で分かりやすく興味深かった。
- ・自分の学級づくりを振り返る機会となった。
- ・自分の生徒との接し方が確認できた。
- ・学級づくりの大切さを改めて実感した。
- ・日々子どもたちと接する中で大切なことを教えていただき、感謝です。
- ・教師と子どもの関係づくりは、教育ではとても大切なことなので、話を伺うことができてよかった。
- ・ちびまるこちゃんのような学級づくりをしていきたいと思う。
- ・ついマイナスの言葉を掛けてしまいそうになるが、なるべく褒めるように気を付けている。自尊心情って大切だと痛感している。
- ・自尊心情や「ちびまるこちゃん学級」など分かりやすい説明で、イメージができた。
- ・様々な家庭環境の子どもたちの自尊心情を育むために、学校が安心できる居場所であることが、とても大切なことだと感じた。
- ・曾山先生の著書（紹介された本）を読んで勉強したい。
- ・久しぶりに話を聞くことができよかった。
- ・どの校種においても、まず学級づくりが大切だということを感じた。
- ・日々、何気なく使っていると思われるYOUメッセージについても、改めて振り返る機会となった。
- ・ユーメッセージやアイメッセージなど、本来自分が言っていた言葉を少し変えただけで相手にとって受け入れやすいものになると改めて実感した。
- ・「気になる糸だけを引っ張らず、ハンカチ全体を持ち上げる」という話が、自分の役割と照らして、とても身に染みた。
- ・特別支援教育の側面だけでなく、学級づくりに応用できる内容だった。
- ・一人を大事にすることの大切さを改めて感じた。
- ・テンポ良い話し方が大変興味深かった。
- ・どの校種でも、自尊心情やソーシャルスキルを育てることは大切なことだと感じた。
- ・特別支援教育というジャンルは、まさにユニバーサルなジャンルだと再認識できた。
- ・実践で使える例が多かった。
- ・テイクアウトメッセージがしっかりした講話だった。
- ・引き出しに空きを作っておく、様々なものを入れておき、子どもに合わせて出してこられるようにしていきたいと思う。
- ・もっとゆっくり講演を聞く時間があればと思った。
- ・特別支援教育という視点で教育を考えることができ、参考になった。
- ・大切なことを分かりやすく伝えていただいた。
- ・採用1年目で、まだ、学級担任を持ったことがないが、今後、気を付けたり注意を払ったりしなければならぬことが、具体的に考え付くことができた。

- ・子どもたちの生活の中心である授業を成立させるためにも、普通の学級自体が、組織として成り立つようにユニバーサルな教育・支援を行いたい。
- ・中学生（3年生）でも子どもっぽい生徒がたくさんいるため、自分のところの生徒の話を聞いているようだった。
- ・今担任しているクラスでは発達年齢的に活用できないが、今後、生徒の実態に合わせて活用していきたい。
- ・優しい語りかけ口調で、安心して聞くことができた。
- ・「I think」の前の理論が私には少ないので、学びを深めなければならないと思った。
- ・日々考えていたことを応援してもらったような気がした。
- ・桜咲タイムの実践研究が印象に残った。新聞記事の中に「地域の人に進んで挨拶できるようになった」とあり、週1回10分の取組の成果を生徒自身が実感していることが素晴らしいと思った。特別支援学校の生徒もそのようなことができる生徒に育てたいと強く感じた。
- ・時間があれば、桜ヶ丘中学校の実践についてお話を聞きたかった。

平成29年度 部会活動報告書

| 部会名 | 国 語 | 記入者名 | 佐藤 優子 (所属 秋大附属中) |
|---|-----|------|-------------------|
| <p><今年度の実績></p> <p>① 特別支援学校と小学校</p> <p style="padding-left: 20px;">特別支援学校の ・ 研究授業 小学校教務菅野先生が研究協力者として</p> <p style="padding-left: 40px;">・ オープン研修会 ” 指導助言者として</p> <p style="padding-left: 40px;">・ 公開研究協議会 ” 研究協力者として参加</p> <p style="padding-left: 40px;">(各研究会とも菅野先生のご協力・ご指導は好評で、大変勉強になりました。)</p> <p>② 小学校と中学校</p> <p style="padding-left: 20px;">共に、公開研究協議会の当日及び、事前検討会で研究協力を行った。</p> <p style="padding-left: 20px;">(中学校：事前の検討会では小学校の先生方からアドバイスをいただいて、大変参考になりました。)</p> <p><次年度に向けた予定・課題等></p> <p style="padding-left: 20px;">・ 公開研究協議会の教材研究の時点で、大学の先生からアドバイスを受けられるように</p> <p style="padding-left: 40px;">漢文・国語学・文学の先生がいらっしゃるのでお願いしてはどうか。</p> <p>➡○小学校 4/20前後に、大橋先生にアドバイザーとしてお願いをする。</p> <p>➡○特別支援 教科書がなく、生徒の状況で授業を決めていくため、まだ未定だが、「語彙」の辺りで、大橋先生にご協力・ご指導をお願いしたい。</p> <p>➡○中学校 公開研究協議会が早いため、ご相談ご指導いただく時間の設定が難しいかもしれない。小学校の取組を参考に来年度に、お願いできる形にしていきたい。</p> <p><次年度の体制></p> <p>部 会 長：</p> <p>副部会長：牧 留美子 (附属中)</p> <p>書 記：小松田ひかり (附属小)</p> | | | |

平成29年度部会活動報告書

| 部会名 | 理 科 | 記入者名 | 林 信太郎 (所属 教育文化学部) |
|--|-----|------|-------------------|
| <今年度の実績> | | | |
| 附属小学校： | | | |
| 2017年6月9日の附属小学校公開研究協議会では、3A清水琢教諭「電気の通り道を調べよう」、5A渡部誠一郎教諭「ものの溶け方を調べよう」6A高橋猛教諭「てこの働きを調べよう」の3つの研究授業を行った。研究協力者は学部の川村教一教授、田口瑞穂講師である。 | | | |
| また、2017年10月31日開催の秋の授業研究会では、同じ二人の学部教員の協力のもと、研究授業6A高橋猛教諭「電気と私たちの暮らしとのかかわりを調べよう」を行った。 | | | |
| 2018年2月13日の第6回校内研修会、2月27日の理科部内研究会では、それぞれ3A清水琢教諭の「磁石につけて調べよう」、5A渡部誠一郎教諭の「電磁石の性質と働きについて調べよう」の研究授業と検討会が田口瑞穂講師の協力のもと行われた。 | | | |
| これらの他に6年生3クラスを対象とした、アンモナイトと三葉虫の化石の観察授業が2時間にわたる研究授業として2月に行われた。 | | | |
| 附属中学校： | | | |
| 附属中学校の公開研究協議会に向けて事前打ち合わせ・指導案検討を行った（事前打ち合わせ 2017年5月10日）。 | | | |
| 公開研究協議会（6月2日）では、月の満ち欠けをテーマとした研究授業を行った。学部の協力者は林信太郎教授である。 | | | |
| 2017年8月3日(木)に、秋田県の小学校6年生を対象とした共同授業「秋田一受けたい授業」を行った。「ドライアイスの不思議な世界」「身近な生き物のからだのつくりを見てみよう」などをテーマとした。講師は学部教員。 | | | |
| 附属中学校の生徒から希望者を募集し、科学講座を2回行った。「生物の解剖」が2017年7月14日(金)に「火山」が2017年11月22日(水)に行われ、多数の生徒の出席があった。 | | | |
| <次年度に向けた予定・課題等> | | | |
| 様々な形での附属小中学校と学部との連携を強化していくことが確認された。附属学校のニーズと学部で実行可能な題材をすり合わせるために、部会長がリエゾン機能を担うこととした。 | | | |
| <次年度の体制> | | | |
| 部 会 長：石井照久教授 | | | |
| 副部会長：島田勝美教諭 | | | |
| 書 記：渡部誠一郎教諭 | | | |

平

成29年度部会活動報告書

| 部会名 | 音 楽 | 記入者名 | 吉澤 恭子（所属 教育文化学部） |
|---|-----|------|------------------|
| <今年度の実績> | | | |
| 附属小学校 | | | |
| <ul style="list-style-type: none">・大山光子教諭が音楽専科として4月に赴任された。昨年度に引き続き6月に開かれた公開研究協議会では「表現」と「鑑賞」を関連づけた音楽実践を出発点とし、指導者・学習者が新たな学びに向かおうとする協働的な実践へと展開した。・2017年11月10日（金）に「第65回東北音楽教育研究大会秋田大会小学校部門」が附属小学校を会場として開催された。小林葉子教諭による実践研究が披露された。県内および東北地方の音楽科教員による情報交換および研鑽の場として、有意義なイベントとなった。・小学校3年生を対象とした「鑑賞」の授業において、2018年2月22日（木）に音研4年生3名・吉澤による生演奏が導入された。同活動は共同授業研究の一環として、また部内研（2月23日実施）の事前授業として試行されたものである。これを機に次年度は、学部教育の充実化に向けた附属小学校との共同研究が着手される見込みである。 | | | |
| 附属中学校 | | | |
| <ul style="list-style-type: none">・数年ぶりに公開研究協議会が再開・開催された。本年度は「我が国の伝統音楽」に関するテーマが取り上げられた。大学側と授業者との共同研究の初年度にあたり課題も多く見られるが、今後も連携しながら準備を進めていくことが期待される。・中学校内における大学との共同的な取り組みとして、2017年9月に石原慎司講師による合唱ならびに指揮の指導が実施された。次年度以降、こうした活動は共同研究へと展開されていく見込みである。 | | | |
| <次年度に向けた予定・課題等> | | | |
| <p>附属小学校・附属中学校共通の課題として、以下2点が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・教職大学院のカリキュラム関連科目の方向性と実践内容も念頭に入れつつ、小中連携・接続を考慮した授業計画を検討していく必要性。・大学と附属学校による共同研究や共同授業等の継続的な実施。 | | | |
| <次年度の体制> | | | |
| 部 会 長：吉澤恭子 | | | |
| 副部長：石原慎司 | | | |
| 書 記：大山光子 小林葉子 江畑美香 | | | |

平

成29年度部会活動報告書

| 部会名 | 図画工作・美術 | 記入者名 | 三浦 里子（所属 附属小学校） |
|---|-------------|---|-----------------|
| <今年度の実績> | | | |
| 附属小学校 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会では、長瀬先生から、研究テーマや重点についての助言や題材のもつ価値、子どもに付けるべき力、共通事項など、授業に関するさまざまな点について専門的な助言を受けた。また、授業者の疑問について、丁寧に相談にのっていただいた。授業後には、題材について、指導について、研究テーマである「対話」と教科の本質の関わりという視点からの確な助言をいただいた。 ・校内研究会の授業後の検討会では、「対話」の支援、作品鑑賞方法等についての指導助言をいただいた。 ・夏休みに長瀬先生と共同で題材開発の研究を行った。5年生児童2名にも参加してもらい、デジタルカメラも活用した第5学年の題材「アイドル発見！ デビューさせるのは私！」を開発をした。 子供たちは、隠れた「私のアイドル」を学校探検で見付けて、デジタルカメラで記録していく。これらの画像を取捨選択し、プリントアウトした「私のアイドル」がデビューする情景を想像して、発想や構想を進めていく。本題材では子供が、表し方の工夫を自信をもって創造的に進めるために、モダンテクニックなどをあらかじめ経験する場も設定した。また、ここでは構成要素（造形秩序）などの知識も活用し、プリントアウトして切り抜いた「アイドル」を画面上で何度も操作することで、子供たちが効果的な表し方に辿り着くようにした。 | | | |
|  | |  | |
| 学校探検で「私のアイドル」を見付ける | | 構成要素の「リズム」などを使ってみた作品 | |
| 附属中学校 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりの段階から石井先生の指導を受けた。題材の構想や本時の展開、ねらいや生徒の実態に適した支援について助言をいただいた。また、ユニバーサルデザインについてデザインの観点からの「共働」の考えを示唆していただいた。 ・紀要への助言をいただいたり、原稿を執筆していただいたりした。 | | | |
| <次年度に向けた予定・課題等> | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校共に公開研究会に向けて、授業づくりの段階からかかわり、互いにアドバイスし合う。また、研究協力者と授業者が密に連絡をとり合い、専門的な指導助言をもらい、教材観や指導観、研究テーマを深めていく。また、平成30年度の造形研全国大会に向けての情報交換をする。 ・特別支援学校のふたば学級と小学校低学年の図工を通じた交流を試みたい。 ・小中学校で部内研等での授業提示を行う際に、図工・美術部会の部員全員にメールで連絡し、授業を参観してもらおう機会をつくる。 | | | |
| <次年度の体制> | | | |
| 部会長 | 遠藤敏明 先生 | | |
| 副部会長 | 進藤 亨（附属小学校） | 書記 | 小柳紀恵子（附属中学校） |

平成29年度部会活動報告書

| 部会名 | 体育・保健体育 | 記入者名 | 松本 奈緒 (所属 教育文化学部) |
|--|----------------|------------------|-------------------|
| <今年度の実績> | | | |
| 公開協議会共同研究 | | | |
| 附属小学校 | 6年生 ハンドボール | | |
| | 3年生 フラッグフットボール | 共同研究者 | 佐藤 靖 |
| 附属中学校 | 1年生 フォークダンス | 共同研究者 | 松本 奈緒 |
| 研究協力 | | | |
| 附属小学校 | | | |
| 1) 子どもの描画分析にみる学習者の認知研究 | | | |
| | 実践者：三浦大介 | 器械運動 (とび箱運動) | |
| | 実践者：佐々木雅巳 | 器械運動 (マット運動) | |
| | | ボール運動 (プレルボール) | |
| | | 研究者：松本奈緒 | |
| 2) プレルボールにおける作戦のプロトコル研究 | | | |
| | 実践者：佐々木雅巳先生 | ボール運動 (プレルボール) | |
| | | 研究者：佐藤みちる (学部4年) | |
| | | 指導教官：松本奈緒 | |
| 附属中学校 | | | |
| 1) フォークダンスにおける学習者の認知 (ふきだし法) | | | |
| | 実践者：加賀谷武英 | ダンス (フォークダンス) | |
| | | 研究者：松本奈緒 | |
| 2) ダンスのイメージに関する調査 | | | |
| | 実施者：佐々木勝利 | ダンス領域全般 | |
| | | 研究者：松本奈緒 | |
| <次年度に向けた予定・課題等> | | | |
| ・子どもの描画分析にみる学習者の認知研究は、継続して附属小学校に協力をお願いしたい。(研究者：松本奈緒) | | | |
| <次年度の体制> | | | |
| 部会長：松本 奈緒 (大学) | | | |
| 副部会長：三浦 大介 (小学校) | | | |
| 書記：佐々木勝利 (中学校) | | | |

平成29年度部会活動報告書

| 部会名 | 英 語 | 記入者名 | 若有 保彦（所属 教育文化学部） |
|---|-----|------|------------------|
| <p><今年度の実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ●学部の教育の充実に向けた共同の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習事前指導における附属中での一日実習 ・大学院の「小学校英語の理論と実践」及び免許状認定講習「英語科教育学」の授業の一環として、公開研究協議会の授業見学を行った。 ・小学校英語の専科教員として必要な知識技能を身につけることを目的とした「初等英語科教育学」の授業の一環として、附属小学校で学生が模擬授業を実施した。 ・英語教育コースの学生2名が卒業研究の実験授業を附属小学校で実施させていただいた。 ●公開研究協議会などに向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・大学教員と中学校英語担当教員または小学校外国語活動担当教員との打ち合わせ及び大学教員による事前の授業参観 ・附属中学校において、5月25日の春季授業研究会での授業参観及び指導助言 ・附属小学校において、5月29日の校内研修会での授業参観及び指導助言 ・附属中学校において、2月14日の「授業を見合う会」での授業参観及びコメント ●その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・附属中学校の国際交流室への英語教育専攻学生の協力 <p><次年度に向けた予定・課題等></p> <ul style="list-style-type: none"> ●公開研究協議会などに向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・附属中学校では、「批判的読解力」がキーワードになる見通しなので、これに向けた授業計画を考える必要がある。 ・附属小学校では、教科教育の教員だけではなく、教科専門の教員にも関わってもらい、教材選択や英語に関する知識などの面でアドバイスをいただきたい。 ●その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・附属小学校では来年度は小学校3・4年では外国語活動を15時間程度、5・6年では英語を50時間程度実施する予定。 ・国際交流室の運営について、小中の要望を文書の形でまとめて大学に伝えて欲しい。 <p><次年度の体制></p> <p>部 会 長：佐々木 雅子 副部長：小松 紳（転勤の場合は石田先生または原田先生） 書 記：若有 保彦</p> | | | |

平成29年度部会活動報告書

| | | | |
|--|----------------------------------|--------------------|-------------------------|
| <p>部会名</p> | <p>総合部会(生活単元学習・遊びの指導・生活科を含む)</p> | <p>記入者名</p> | <p>中野 良樹(所属 教育文化学部)</p> |
| <p><今年度の実績></p> | | | |
| <p>1. 学部における小学校、幼稚園との連携事業</p> | | | |
| <p>① 平成29年6月9日、附属小学校公開研究協議会において学部との共同により提案授業を行った。授業者は附属小学校2年B組担任・嶋崎裕子教諭、1年A組担任・福田佳子教諭。学部からは学校教育課程所属の中野良樹教授が助言指導を行った。</p> | | | |
| <p>② 平成30年1月9日、学部教員免許科目「生活科教育学概論」において、小学校から福田教諭が講師として生活科の実際について講義した。</p> | | | |
| <p>2. 附属小学校における他校園との交流活動</p> | | | |
| <p>① 特別支援学校ふたば学級との交流</p> | | | |
| <p>1年生</p> | | | |
| <p>1回目 7月10日(月) 9:35~10:20</p> | | | |
| <p>場所:附属小学校 内容:よつば学習「なかよくなろう」障がい理解授業 特別支援学校の先生が来て授業</p> | | | |
| <p>2回目 7月13日(木) 12:30~13:20</p> | | | |
| <p>場所:附属小学校 内容:一緒に給食を食べよう</p> | | | |
| <p>3回目 11月1日(水) 10:45~11:30</p> | | | |
| <p>場所:附属小学校 内容:一緒にダンスや図工の作品づくりを楽しもう</p> | | | |
| <p>4回目 2月20日(火) 10:30~11:15</p> | | | |
| <p>場所:特別支援学校 内容:ふたば学級の子どもたちと一緒に「3びきのやぎのがらがらどん」の劇遊び。</p> | | | |
| <p>2年生</p> | | | |
| <p>1回目 6月22日(木) 9:35~10:20</p> | | | |
| <p>場所:附属小学校 内容:よつば学習「一緒に楽しく」→障がい理解授業 特別支援学校の先生が来て授業</p> | | | |
| <p>2回目 6月26日(月) 12:30~13:20</p> | | | |
| <p>場所:附属小学校 内容:一緒に給食を食べよう</p> | | | |
| <p>3回目 10月22日(金) 10:30~11:15</p> | | | |
| <p>場所:附属小学校 内容:「さるかにかっせん」の劇で交流</p> | | | |
| <p>4回目 3月上旬の予定</p> | | | |
| <p>場所:附属小学校 内容:一緒に体をつかって遊ぼう</p> | | | |
| <p>② 附属幼稚園との交流</p> | | | |
| <p>1回目 なかよしタイムパートI (附属幼稚園で遊ぶ)</p> | | | |
| <p>5月17日(水) 1B, 5月18日(木) 1A, 5月19日(金) 1C</p> | | | |

2回目 なかよしタイムパートⅡ

7月7日(金) 1B(附属幼稚園で遊ぶ), 7月12日(木) 1A(小学校ふれあい広場で遊ぶ),
8月31日(木) 1C(小学校はとの子ホールで遊ぶ)

3回目 1月19日(金) 1A 附属幼稚園に訪問し, 年長児にインタビューしたり, 年長児の担任の先生から話を聞いたりした。

4回目 なかよしタイムパートⅢ

2月7日(水) 1A 附属小学校はとの子ホールで, 1Aの子どもたちが考えたゲーム等で年長児と交流

5回目 なかよし給食

2月9日(金) 1A, 1B, 1C 附属小学校はとの子ホールで, 年長児と一緒に給食を食べる。

③ 幼小連携授業

11月27日(月) 13:40~14:25

幼小連携相互乗り入れ授業① 2B生活科「あそんで ためして くふうして」

TT授業 附属小 嶋崎先生, 附属幼稚園 菅生先生

12月1日(金) 13:40~14:25

幼小連携相互乗り入れ授業② 2B生活科「あそんで ためして くふうして」

TT授業 附属小 嶋崎先生, 附属幼稚園 菅生先生, 佐藤先生

3. 附属特別支援学校 小学部生活単元学習等における校園間の交流及び大学・学部との連携

① 給食交流

6月14日~16日 あおば学級と附小6年A~C組

6月26日 ふたば学級と附小2年A~C組

7月5日~18日 ふたば学級と附小1年A~C組 わかばと附小4年B、C組 あおば学級と附小3年A~C組、4年A組、5年A~C組

12月5日、11日 わかば学級と附小4年B組、3年C組

② うどん交流

12月15日(附小3B)、1月24日(附小4B)、2月7日(附小4A)、

2月20日(附小4C)

③ ふたば学級と附属幼稚園との交流

10月13日(さつまいも交流)、12月13日(もちつき交流)、

④ ゲーム・劇遊び・制作交流

10月20日 ふたば学級と附小1年、2年A~C組、

12月14日、18日、1月19日、29日 あおば学級と附小5年A~C組、6年B組

2月20日、26日 ふたば学級と附小1年A~C組

⑤ 卒業論文への協力

・特別支援学校における美術科の指導 中学部 櫻田 佳枝 先生

・障害理解教育について 小学部 相場眞里子 先生

⑥ 学部における授業担当

| 担当者職・氏名 | | 期 日 | 授 業 科 目 名 |
|---------|------|----------------|--------------------|
| 教 頭 | 跡部耕一 | 平成29年5月10日(水) | 教職入門 |
| 教 頭 | 跡部耕一 | 平成29年6月19日(月) | 個のニーズに応じたカリキュラムの編成 |
| 教 頭 | 跡部耕一 | 平成29年6月20日(火) | 教職入門 |
| 教 頭 | 跡部耕一 | 平成29年6月22日(木) | 教職入門 |
| 教 諭 | 高橋基裕 | 平成29年6月26日(月) | 個のニーズに応じたカリキュラムの編成 |
| 教 頭 | 跡部耕一 | 平成29年7月12日(水) | 知的障害教育論Ⅰ |
| 主幹教諭 | 神部 守 | 平成29年11月30日(木) | 知的障害教育論Ⅱ |
| 教 諭 | 菊地 武 | 平成29年12月7日(木) | 知的障害教育論Ⅱ |
| 教 諭 | 高橋省子 | 平成29年12月21日(木) | こども発達援助論 |
| 教 諭 | 栗田 寿 | 平成29年12月21日(木) | 知的障害教育論Ⅱ |
| 養護教諭 | 小野了子 | 平成30年1月12日(金) | 公衆衛生看護管理論 |

<次年度に向けた予定・課題等>

- ・ 上記交流事業の整理と活用。
- ・ 平成30年度公開研究協議会における授業提案。
- ・ 4年次卒業論文を活用した幼小と大学での共同研究の推進。

<次年度の体制>

部 会 長：中野 良樹（教育文化学部学校教育課程こども発達・特別支援講座）

副部長：福田 佳子（附属小学校）

書 記：島津 真奈美（附属特別支援学校）

平成29年度部会活動報告書

| 部会名 | 道 徳 | 記入者名 | 保坂 智子（所属 附属小学校） |
|--|-----|------|-----------------|
| <今年度の実績> | | | |
| ①学部・研究科の教育の充実に向けた共同の取り組み | | | |
| ・指導案の書き方についての講義・演習 | | | |
| 教育実習事前事後指導：11月9日（木） | | | |
| ②公開研究協議会などに向けた取り組み | | | |
| ・中学校の公開研究協議会に向けて事前打ち合わせ・指導案検討を行った。 | | | |
| 事前打ち合わせ 5月10日（水） | | | |
| 公開研究協議会 6月 2日（金） | | | |
| ③共同研究や共同授業などの取り組み | | | |
| ・小学校の校内研修会に向けて指導案検討，協議等を行った。 | | | |
| 指導案検討会（道徳部会） 1月12日（金） | | | |
| 全員授業 1月18日（木） | | | |
| 校内研修会 1月25日（木） | | | |
| ④学外の研究・研修団体などに関わる取り組み | | | |
| ・平成29年度小学校新教育課程説明会への参加 6月21日（水）・22日（木） | | | |
| ・日本道徳教育学会 第89回大会への参加 7月1日（土）・2日（日） | | | |
| ⑤部会の組織、運営などに関する取り組み | | | |
| ⑥その他の取り組み | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| <次年度に向けた予定・課題等> | | | |
| 1 公開研究協議会に向けた打ち合わせ、指導案検討 | | | |
| 2 部会内での取り組み（小学校：オープン研修会、中学校：授業研修会 など） | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

平成29年度 部会活動報告書

| 部会名 | 特別活動 | 取りまとめ | 森 和彦 (所属 教育文化学部) |
|---|---|-------|------------------|
| <今年度の附属小学校の実績> | | | |
| 4月 4日 (火) | 特活部会① (今年度の経営について) | | |
| 6月 2日 (金) | 附属中学校公開研究会 特活公開授業・研究協議会への参加 | | |
| 1月 1 2日 (金) | 校内研修会に向けた指導案検討会① (森先生の指導助言を賜りました) | | |
| 1月 1 6日 (火) | 校内研修会に向けた指導案検討会② | | |
| 1月 1 7日 (水) | 特活部会② (今年度の経営反省) | | |
| 1月 1 8日 (木) | 学級活動全員授業 (6年) | | |
| 1月 1 9日 (金) | 学級活動全員授業 (1年, 4年) (6年の授業を森先生にご覧いただき, 指導助言を賜りました) | | |
| 1月 2 6日 (木) | 校内研修会 (1A学級活動 授業者: 福田佳子) (森先生の指導助言を賜りました) | | |
| <p>今年度も全員授業を行った。この日を目指して各クラスで実践を積み重ねたことについて情報交換できたのがいちばんの成果である。校内研修会には、1年生なりの合意形成する場面が見られた。1年生からの積み重ねがとても大切であると感じた。</p> | | | |
| <次年度に向けた予定・課題等> | | | |
| <p>子どもたちに話合いの資質・能力を付けていくための一番の近道は、全校体制で話し合い活動に取り組んでいくことである。日々の取組について情報交換できる場を設けたり、活用した資料を交換したりすることを積極的に行いたいと考えている。</p> <p>地道な取り組みを積み重ねていくことができるよう、特活部会や学年間の情報交換の場をもつことができるような働きかけをいかしていくかが、次の課題である。</p> | | | |
| <今年度の附属中学校の実績> | | | |
| ①学部・研究科の教育の充実に向けた共同の取り組み | | | |
| ●学習指導案作成指導 | | | |
| 11/16・・・指導要領についてと指導案の書き方についての講義・演習 | | | |
| ●教職大学院での講義 | | | |
| 6/5・・・公開研究協議会での授業についての講義・演習 | | | |
| ②公開研究協議会などに向けた取り組み | | | |
| ●題材名「働くことと充実した人生の関わりー『人生の樹』を活用してー」 | | | |
| ～新たな価値を見いだす話合いと自己評価～ | | | |
| 5/10 公開研指導案事前検討会 | | | |
| 6/2 公開研究協議会【授業及び協議会】 | | | |

<次年度に向けた予定・課題等>

①学部・研究科の教育の充実に向けた共同の取り組み

●教育実習事前事後指導

指導要領についてと指導案の書き方についての講義・演習

②公開研究協議会などに向けた取り組み

●公開研指導案事前検討会

●公開研究協議会【授業及び協議会】

●秋季校内研指導案検討会

●秋季校内研修会【授業及び協議会】

<次年度の体制>

部会長 附属の特別活動を担当する大学教員

副部会長 附属中学校特別活動の主任教員

書記 附属小学校特別活動の主任教員

平成29年度部会活動報告書

| 部会名 | 学校経営 | 記入者名 | 佐藤 修司（所属 教育文化学部） |
|---|------|------|------------------|
| <今年度の実績> | | | |
| <p>○教育実習に関する特例措置を創設した。病気、障害等、やむをえない理由で教育実習等に行けない学生に対して、代替科目の履修を認めることとした。</p> <p>○文科省の有識者会議報告に対応するため、WGを設置して現状と今後の取り組み等を整理し、文科省に提出するとともに、文科省担当者との面談を行った。</p> <p>○2月20日に教員育成指標、教職課程コアカリキュラム等に関わるフォーラムを開催した。3月16日には、有識者会議報告とともに、まなびの総合エリアに関わるフォーラムを開催した。</p> <p>○附属学校運営会議要項、附属学校経営委員会要項、子どもの人権委員会要項、子どもの人権侵害調査部会要項を改正し、来年度より、センター長及び教員養成担当学部長補佐がより附属学校への支援に関わる体制を構築した。</p> | | | |
| <次年度に向けた予定・課題等> | | | |
| <p>○有識者会議報告を受けて、附属学校園の今後の在り方、教員研修への貢献のあり方、附属学校園教職員の働き方改革などについて検討し、取り組んでいくことが求められる。本部会として、そのための調査・検討を4校園全体及び学部が一体となっていくことに尽力する必要がある。</p> <p>○中期計画において、教員養成プログラム、教員研修プログラムの開発が挙げられていることから、4校園の取り組みを全体としてとりまとめ、検討することが求められる。</p> | | | |
| <次年度の体制> | | | |
| 部会長：原 義彦 | | | |
| 副部会長：(来年度中学校以外の副校園長に依頼予定) | | | |
| 書記：田仲誠祐 | | | |

平成29年度 部会活動報告書

| 部会名 | 幼稚園 | 記入者名 | 山名 裕子 (所属 教育文化学部) |
|--|-----|------|-------------------|
| <今年度の実績> | | | |
| 1. 附属教員の学部での授業 | | | |
| ・教職入門 5月10日(水) 菊地彩子 | | | |
| ・教育実習事前事後指導 6月15日(木) 渡邊真紀・菊地彩子・菅生由香子・白畑展子・今野文龍 11月30日(木) 渡邊真紀・菅生由香子・白畑展子・今野文龍 | | | |
| ・こども発達援助論 2月1日(木) 中村知江子 | | | |
| ・初等生活科教育学 1月16日(火) 菊地彩子 | | | |
| 2. 附属学校園教員と大学教員との共同研究 | | | |
| (1) 教員の共同研究を目的とする保育観察・記録 (大学教員の保育観察・記録 ～週1回程度) | | | |
| ① テーマ1：幼稚園教育課程の研究 | | | |
| (a) 3年保育の教育課程の再考～幼児と共につくる生活～ (附属幼稚園研究テーマ) | | | |
| (b) 幼児教育における計画概念の検討 (奥山順子) | | | |
| ② テーマ2：遊びを中心とする保育を考える | | | |
| ③ テーマ3：幼児にとっての「集団」の意味 (奥山順子) | | | |
| ④ テーマ4：幼児期から児童期にかけての認知発達～3年保育における発達の連続性・非連続性～ (山名裕子) | | | |
| ⑤ テーマ5：子ども自らがつくる安全な環境 (瀬尾知子) | | | |
| (2) 附属幼稚園との共同研究の基盤となる関係作り | | | |
| ① 日常的な保育実践の理解と相互の信頼関係の構築 参与観察・保育参加 | | | |
| ② 大学における保育講座 (秋田乳幼児保育研究会) への附属教員の参加 (6回) | | | |
| ③ 大学教員からの研究情報の提供 | | | |
| ・研究会報の発行 『秋田乳幼児研究会報 第10号, 2018年3月』の発行予定 | | | |
| ・「研究会たより」の発行 No.67～82 | | | |
| ・幼稚園教員向け保育情報「さくら通信」の発行 No.32～56 (奥山) | | | |
| (3) 保育実践研究・保育カンファレンス (学部教員の研究保育・園内研究会等への参加) | | | |
| ・4月17日(月) 5歳児(そら組) 保育研究会 奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 参観・研究会への参加 | | | |
| ・5月2日(火) 3歳児(もり組) 遊びを語る会 奥山順子・山名裕子 参観・研究会への参加 | | | |
| ・5月15日(月) 3歳児(はな組) 遊びを語る会 奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 参観・研究会への参加 | | | |
| ・5月29日(月) 4歳児(ほし組) 保育研究会 奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 参観・研究会への参加 | | | |
| ・6月6日(火) 第1回公開研究協議会打ち合わせ 奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 研究打ち合せ | | | |
| ・6月8日(木) 3歳児(もり組) 保育研究会 奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 研究打ち合せ | | | |
| ・6月12日(月) 5歳児(そら組) 遊びを語る会 奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 研究打ち合せ | | | |
| ・6月20日(火) 第1回公開研究協議会打ち合わせ 奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 研究打ち合せ | | | |
| ・6月29日(木) 公開研究会 奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 参加・コメンテーター | | | |
| ・7月11日(火) 4歳児(ほし組) 遊びを語る会 奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 参観・研究会への参加 | | | |

- ・ 8月23日（水）保育研修会「幼児期の終わりとは？～改訂（改定）幼稚園教育要領・保育所保育指針等の理解に向けて～」奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 研修会講師(園外からの参加者もあり)研修会への参加
- ・ 11月6日（月） 第2回公開研究協議会打ち合わせ 奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 研究会打ち合わせ
- ・ 11月17日（金） 第2回公開研究協議会 奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 参加・コメンテーター
- ・ 12月12日（火） 3歳児（はな組）保育研究会 奥山順子・瀬尾知子 参観・研究会への参加
- ・ 2月23日（金） 5歳児（そら組）保育研究会・幼小相互乗り入れTT保育合同研究会
奥山順子・山名裕子・瀬尾知子 参観・研究会への参加

(4) 教育実習事後指導を通して

- ① 大学教員が事後指導において学生の保育記録をもとにしたカンファレンスを実施。
- ② 記録を練り直し、再考察をまとめたものを編集して冊子として作成。
- ③ 幼稚園教育実習の記録『たまご15号（2017年12月発行）』

3. 附属4校園の交流・参観

(1) 附属小学校

1年生と5歳児の交流(5月17日, 18日, 19日, 7月7日, 12日, 8月31日, 1月19日, 2月9日)

(2) 附属特別支援学校

- ① 高等部と5歳児のサツマイモ苗植え交流（5月12日）
- ② 全児童生徒と全園児の「竿燈交流」（7月20日）
- ③ 小学部ふたば学級と交流（5月25日, 6月22日）
- ④ 小学部ふたば学級と全園児の「おもちつき交流」（12月13日）
- ⑤ 小学部ふたば学級と全園児の「やきいもを食べよう」（10月13日）

(3) 附属中学校

附中1年生の保育体験（1月24日, 26日）

4. 卒業研究における観察

- (1) 5歳児の遊びにおける目的の共有
- (2) 3歳児にとっての「物」の意味とかかわり—「物」をきっかけとしたかかわりに着目して—
- (3) 子どもの「将来の夢」とその発達に関する考察
- (4) 幼保小交流を通じた年長児の小学校に対する期待と不安の変化

<次年度に向けた予定・課題等>

1. 大学教員の継続的な参与観察とそれを生かした研究推進

- (1) 29年度同様に、学部・附属幼稚園が連携、協力してそれぞれの立場で研究を進め、その成果を幼稚園研究紀要、学会誌への投稿、学会発表によって地域等に発信する。
- (2) 双方の主体性が発揮できる対等な関係での共同研究体制の模索。

2. 附属教員の学部での授業

教職入門, 教育実習事前事後指導, こども発達援助論, 初等生活科教育学

3. 附属学校園教員と大学教員との共同研究

- (1) 教員の共同研究を目的とする保育観察・記録
- (2) 附属幼稚園との共同研究の基盤となる関係作り
日常的な保育実践の理解と相互の信頼関係の構築
- (3) 学部教員の研究保育・園内研究会・保育カンファレンスへの参加
- (4) 教育実習事後指導を通しての学生指導

4. 大学教員の附属学校園の公開研究協議会などへの参加

- (1) 附属幼稚園で2回の公開研究協議会を実施予定
第2回目は保育以外の企画（講演，シンポジウム等）を大学教員が担当
- (2) 公開保育の事前研究会への参加
- (3) 保育へのコメンテーターとしての参加

<次年度の体制>

部会長：奥山 順子

副部会長：小玉 史男

書記：山名 裕子

平成29年度部会活動報告書

| 部会名 | 小学校 | 記入者名 | 工藤 絹子（所属 附属小学校） |
|---|-----|------|-----------------|
| <p>＜今年度の実績＞</p> <p>14の共同研究グループが構成され、大学教員と連携した共同の授業や研究を進めることができた。</p> <p>公開研究協議会・秋の授業研究会・校内研修会も含め、共同の授業は全ての教科・領域でのべ64回、共同の研究は6教科等15時間を、年間を通して実施することができた。</p> <p>成果は、公開研究協議会等での授業提示、研究紀要・実践事例集の発行・配付、学部附属教育実践研究支援センター研究紀要への論文発表等、県内外に広く発信・普及するよう努力している。</p> <p>また、昨年度の今年度の2年間にわたる文部科学省委託「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業～教科の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善に関する実践研究～」に取り組むに当たり、対象教科（国語・社会・算数・理科）については、特に大学教員との連携を密にしながら授業づくりに取り組んだ。あわせて、年2回開催した実践協議会においても、大学から理事・教育文化学部副学部長・各教科の大学教員が出席し、小学校では、いただいた指導・助言を研究推進や授業実践の充実につなげることができた。</p> <p>1 共同研究グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小学校 国語教育研究グループ ②小学校 社会教育研究グループ ③小学校 算数教育研究グループ ④小学校 理科教育研究グループ ⑤小学校 生活教育研究グループ ⑥小学校 音楽教育研究グループ ⑦小学校 図画工作教育研究グループ ⑧小学校 家庭教育研究グループ ⑨小学校 体育教育研究グループ ⑩小学校 道徳教育研究グループ ⑪小学校 外国語活動研究グループ ⑫小学校 総合的な学習の時間研究グループ ⑬小学校 特別活動研究グループ ⑭小学校 ICT教育研究グループ <p>2 共同の授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国語 11回 授業研究・校内研修会・秋の授業研究会・部内研修会 ②社会 2回 校内研修会・秋の授業研究会 ③算数 8回 授業研究・校内研修会・秋の授業研究会 | | | |

| | | |
|--------|----|--------------------|
| ④理科 | 6回 | 授業研究・校内研修会・秋の授業研究会 |
| ⑤生活 | 9回 | 授業研究 |
| ⑥音楽 | 1回 | 授業研究 |
| ⑦図画工作 | 6回 | 授業研究 |
| ⑧家庭 | 3回 | 校内研修会・秋田市全市一斉授業研究会 |
| ⑨体育 | 7回 | 授業研究・校内研修会 |
| ⑩道徳 | 4回 | 授業研究・校内研修会 |
| ⑪外国語活動 | 2回 | 校内研修会 |
| ⑫総合 | 2回 | 授業研究・校内研修会 |
| ⑬特別活動 | 3回 | 授業研究・校内研修会 |

3 共同の研究

| | |
|--------|-----------------------|
| ①国語 | 授業における「時間」に関する研究 |
| ②社会 | 初等社会授業づくり・初等社会授業づくり演習 |
| ③算数 | 授業における「時間」に関する研究 |
| ④音楽 | 初等音楽授業づくり（鑑賞） |
| ⑤体育 | 体育科教材研究 |
| ⑥外国語活動 | 外国語活動授業研究 |

4 文部科学省委託「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」実践協議会

平成29年度 第1回 平成29年6月29日（月）

平成29年度 第2回 平成30年1月24日（水）

<次年度に向けた予定・課題等>

- ・平成30年度公開研究協議会 平成30年6月8日（金）
- ・オープン研修会 期日は未定
- ・校内研修会 期日は未定
- 公開研究協議会・オープン研修会・校内研修会等，授業を核とした研究及び実践研究の充実に努める。
- 成果の発信について，その方法を工夫する。
- 互いの連絡・連携を密にし，共同研究及びその円滑な運営に努める。
- 働き方改革の視点から，改善点を洗い出し，実践につなげる。

<次年度の体制>

部会長：成 田 雅 樹
副部会長：千 葉 圭 子
書記：堀 川 修

平成29年度 部会活動報告書

| 部会名 | 中学校部会 | 記入者名 | 福司 秀俊（附属中学校所属） |
|---|-------|------|----------------|
| <今年度の実績> | | | |
| 1 飛翔プロジェクト | | | |
| (1) 国際理解教育プロジェクト | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・大学院生のコーディネーターを中心に4校園で活動を展開した。校内の国際交流室を拠点とし、大学の留学生二人をスタッフとして、週2回程度、生徒が昼休みに英会話や国際交流を楽しんだ。 ・オーストラリアにある中等学校とのインターネットを介した交流を行った。主に3年生が英語科の学習の一環として取り組んだ。 | | | |
| (2) 理数教育充実プロジェクト | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・週末の金曜日に、大学との連携で理科・数学の専門的な実験や授業を年6回実施した。全学年から毎回30名程度の生徒が参加した。他に、科学の甲子園や数学オリンピックなど、様々なコンテスト参加で好成績を収めた。 | | | |
| (3) 心の教育充実プロジェクト | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・今年度で4年目となる東日本大震災の被災地である南三陸町訪問学習を7月に実施した。地元の社会福祉協議会の方から当時の状況を伺ったり公営住宅にすんでいる被災者の方々と交流したりした。 ・弁当の日も6月下旬に全校で実施した。この一日だけ生徒が自ら弁当を作り学校に持参した。日頃の母親等の愛情に感謝する言葉が聞かれた。 | | | |
| 2 公開授業研究会に向けた各教科等での授業研究 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科、松本奈緒先生の研究分野でもある「フォークダンス」の授業 ・家庭科、佐々木信子先生の研究分野でもある「食生活の課題と実践」の授業 ・道徳の時間、小池孝範先生との継続研究としている「なんでさん(主体的な質問を促すキーワード)」を用いた授業 ・特別活動、森 和彦先生との継続研究としている、自己理解・他者理解ツールとしての「人生の樹」を活用した学級活動の授業 | | | |
| 3 大学・学部教員との連携による授業実践、講話等 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・阿部 昇先生のご指導による1年国語「月に思う」2年国語「君は最後の晩餐を知っているか」の授業 ・外池 智先生のご指導による3年「花岡事件」の授業 ・杜 威先生、佐藤 学先生のご指導による2年数学「三角形と四角形」の授業 ・佐々木和貴先生、佐々木雅子先生のご指導による2年英語「Presentation 3」の授業 ・柴田 健先生、山崎 誠先生、堤 明正先生による2年総合 DOVE 講話 ・川村教一校長のご指導による1年理科「大地とその変化」2年理科「天気とその変化」の授業 ・県高校教育課主催の「中・高学習指導研究協議会」において中学校会場校として提示した国語・社会・数学・理科・英語の研究授業 | | | |

4 鳩翔サポートセンター

設立4年目で、附中から四校園の活動支援と広がりをもってきた。

目的：附中がもつ、大学や同窓会、保護者など豊富な人脈を生かして附中の教育活動を支える。

(1)キャリア教育推進サポート コーディネーター（同窓会）中心

(2)同窓会支援 コーディネーター

・附中創立70周年記念事業の一環としての名簿作成を支援

(3)飛翔プロジェクト（上を参照）

(4)図書館活性化支援 5人のボランティア登録者中心

・来校できる日に学校図書館で掲示や装飾のボランティアをしていただいている。図書館司書とともに、図書館整備に取り組み、生徒の学校図書館への来場者数・図書貸し出し数が大幅にアップした。

(5)鳩翔ボランティア 25名登録

・今年は、5月に募集し、図書館ボランティアも含めて25名の方が登録している。人材バンクとして、有効に活用することが今後の課題。

<次年度に向けた予定・課題等>

- ・飛翔プロジェクト，特に国際理解教育の小中連携から，四校園連携プロジェクト化
- ・本校の強みを生かした鳩翔サポートセンターの支援により，本校のキャリア教育を柱とする取組を地域の職場体験やボランティアなど地域への貢献へと結び付けていく。
- ・予算面の充実として，より安定できるよう，方策を考えていく。

<次年度の体制>

| | | | |
|------|-----|----|----|
| 部会長 | 校長 | 川村 | 教一 |
| 副部会長 | 副校長 | 福司 | 秀俊 |
| 書記 | 教頭 | 渡辺 | 苑子 |

平成29年度 部会活動報告書

| 部会名 | 特別支援学校 | 記入者名 | 田口 睦子（所属 附属特別支援学校） |
|--|--------|------|--------------------|
| <p><今年度の実績></p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学部・研究科の教育の充実に向けた共同の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部の授業に教頭，各学部主事，進路指導主事，養護教諭が参加し，特別支援教育の校内支援体制の作り方，学部経営や進路指導の実際，学校保健の現状について講義した。 ・ □ 公開研究協議会などに向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開研究協議会及びその事前研究会，オープン研修会において，山名裕子先生・斎藤孝先生（小学部），附属小学校研究主任 菅野宣衛先生（中学部）、藤井慶博先生（高等部）が研究協力者として助言をした。 ・ □ 共同研究や共同授業などの取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤井慶博先生と本校研究部による共同研究「個別の教育支援計画の活用の実践」を実施した。 ・ 長瀬達也校長及び補助学生と図画工作科（対象：小学部全児童）の共同授業を行った。 □ 外の研究・研修団体などに関わる取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ センターの機能推進委員会チーフが民間保育団体研修会の講師，秋田県保育研究大会の分科会助言者を担当した。 □ 会の組織，運営などに関する取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省委託「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業」を実行するために、心のバリアフリー推進プロジェクトを立ち上げ，附属小学校・中学校・幼稚園の教員と共同で発達段階に応じた障害理解教育と交流及び共同学習を行い，多様性を尊重する心の育成と障害への理解を推進し，成果を冊子にまとめた。 <p><次年度に向けた予定・課題等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 附属四校園の共通課題である附属校園内の特別支援教育の推進に向けて，研修会の実施や個別の相談体制の構築を進めていく。 <p><次年度の体制></p> <p> 部会長 藤井 慶博（校 長） 副部会長 跡部 耕一（副校長） 書記 兜森 宏征（教 頭） </p> | | | |

秋田大学教育文化学部附属学校学部共同委員会要項

〔制定〕平成24年10月4日

（目的）

第1条 秋田大学教育文化学部附属学校運営会議要項第8条第3項の規定に基づき、秋田大学教育文化学部附属学校学部共同委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事項）

第2条 委員会は、学部教員と附属学校園教員との共同・協力に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学部・研究科の教育の充実に関すること
- (2) 附属学校園での共同研究及び共同授業に関すること
- (3) その他共同・協力に係る重要事項

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 附属学校経営委員会委員長が指名する附属学校園長1名
- (2) 附属教育実践研究支援センター長
- (3) 附属教育実践研究支援センターから推薦された教員1名
- (4) 各附属学校園副校園長
- (5) 第8条に定める各部会の部会長
- (6) 事務室長
- (7) その他委員長が必要と認めた者

（任期）

第4条 前条第3号及び第7号の委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、第3条第1号の委員をもって充てる。

3 副委員長は、委員長が指名する。

（議事）

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、委員長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

(部会)

第8条 部会は教科別部会、領域別部会及び校園別部会とする。

2 教科別部会は、国語部会、社会部会、算数・数学部会、理科部会、音楽部会、図画工作・美術部会、体育・保健体育部会、技術・家庭部会、英語部会(外国語活動を含む)及び生活・総合部会とする。

3 領域別部会は、総合部会(生活単元学習、遊びの指導、生活科を含む)、道徳部会、生徒指導部会(個別支援、保健指導を含む)、特別活動部会(話し合い活動、学級活動、学校行事を含む)、進路指導部会(キャリア教育を含む)及び情報教育部会(情報機器の活用を含む)とする。

4 校園別部会は、幼稚園部会、小学校部会、中学校部会及び特別支援学校部会とする。

(部会の構成員)

第9条 学部教員及び附属学校園教員は、一つ以上の部会に所属するものとし、複数の部会への所属を妨げない。

2 各附属学校園は、領域別部会の各部会に1名以上を選出する。

3 各附属学校園は、校園別部会の他校園部会に1名以上を選出する。

(部会の組織)

第10条 各部会は、互選により、次の各号に掲げる者を選出する。

(1) 部会長1名

(2) 副部会長若干名

(3) 記録1名

2 前項各号の者の任期は1年とし、再任を妨げない。

3 欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、事務部において処理する。

(補則)

第12条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この要領は、平成24年10月4日から実施する。

2 この要領の実施後最初に委嘱される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

1 この要領は、平成25年10月1日から実施する。

2 この要領実施の際、現に委嘱されている第3条第3号及び第7号の委員の任期は、改正後の第4条第1項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

1 この要項は、平成26年9月11日から実施する。

2 この要項実施の際、現に委嘱されている改正後の第3条第4号及び第8号の委員の任期は、改正後の第4条第1項の規定にかかわらず、平成28年3月31日までとする。

附 則

1 この要項は、平成27年10月1日から実施する。

2 この要項実施の際、現に委嘱されている改正後の第3条第3号及び第7号の委員の任期は、改正後の第4条第1項の規定にかかわらず、平成28年3月31日までとする。

秋田大学教育文化学部附属学校学部共同委員会に関する申し合わせ

平成22年7月8日

平成25年10月1日

平成26年9月11日

- 1 委員会の日常的な運営は、副委員長が担当し、各部会との連絡調整、各部会の名簿作成及び報告書作成の調整などを行うものとする。
- 2 各部会は、年度当初に年度活動計画書を策定し、年度末に年度計画の実施状況等を年度活動実績報告書にまとめ、それぞれ委員会に提出する。
- 3 部会が作成する年度活動計画書及び年度活動実績報告書の記載内容には、次の項目を盛り込むことが望ましい。
 - ①学部・研究科の教育の充実に向けた共同の取り組み
 - ②公開研究協議会などに向けた取り組み
 - ③共同研究や共同授業などの取り組み
 - ④学外の研究・研修団体などに関わる取り組み
 - ⑤部会の組織、運営になどに関する取り組み
 - ⑥その他の取り組み
- 4 毎年度当初、学部教員及び附属学校園教員に対し、部会所属の希望調査を行い、部会の構成員を確定した後、名簿を作成する。
- 5 名簿には、部会構成員の氏名、所属、内線番号及びメールアドレスを掲載し、学部教員及び附属学校園教員全員に配布する。日常的な連絡はメールを活用する。
- 6 部会長と副部会長は、学部教員と附属学校園教員とで分担することが望ましい。
- 7 各附属学校園から選出され、領域別部会に所属する附属学校園教員が、他の部会にも所属する場合には、領域別部会の活動を優先する。
- 8 委員会は、附属学校園教員の領域別部会での活動と他の部会での活動が当該教員の過度の負担とならないよう、可能な限り配慮する。
- 9 部会は、年度当初及び年度末に全体会を開催するように務める。
- 10 委員会は、全学部・附属学校教員を対象として、年1回以上、総会を開催する。

平成29年度附属学校学部共同委員会編集部

委員長 長瀬 達也 (大学院教育学研究科)

副委員長 田口 瑞穂 (英語・理数教育講座)

平成29年度 秋田大学教育文化学部附属学校学部共同委員会実践報告書

発行 平成30年 3月31日

編集 附属学校学部共同委員会編集部

発行者 秋田大学教育文化学部

